

# 右任詩存

上海世界書局印行



發  
行  
所  
暨上  
各省海  
世  
界  
書  
局

中華民國十九年五月初版  
中華民國廿一年十二月四版

右任詩存

全一冊

定價銀一元

出版兼印刷者

世界書局

版權所有不准翻印

世界書局  
PDG

題 詞

柳亞子

落落乾坤大布衣 傷麟嘆鳳欲安歸  
卅年家國興亡恨 付與先生一卷詩

茆店荒雞劍影寒 幾回亡命度函關  
書生已辦憂天下 莫作山東劇孟看

義師惜未下咸陽 百戰無功弔國殤  
寒角悲笳窮塞主 可憐我馬已玄黃

倉皇陽夏籌兵日 辛苦鍾山養望時  
終遣拂衣歸海上 高風峻節耐人思

---

右 任 詩 存

---

泰玄墓畔桂千叢 尚父湖邊夕照紅

稍借江南哀怨地 小戎駟鐵換秦風

廿載盟心結客場 使君風韻鎮難忘

憐余亦有窮途感 才盡江淹鬢未霜



# 右任詩存目次

民國紀元前九年至民國紀元前四年

山試過虎牢.....	一
孝陵.....	一
馬關.....	二
鞏縣謁杜工部祠.....	二
新安早發.....	二
函谷題壁補前作.....	三
省親出關.....	三
過王覺斯墓.....	四



民國紀元前三年至民國紀元前一年

鄭州感舊題壁二首.....	五
洛陽道中.....	五
洛陽懷古四首存二.....	六
新安懷古.....	七
過澠池秦趙會盟處.....	七
過張茅.....	八
車過靈寶... ..	八
入關.....	八
灞橋.....	九
月夜宿潼關見孤雁飛鳴而過.....	九
出關.....	九
葬親出關至國鄉寄程搏九南雪亭周定侯同學楊吟 海先生周石生妹丈.....	一〇

---

右 任 詩 存

---

偃師遇雪.....	一一
汜水道中.....	一一
舟入馬關.....	一一

民國元年

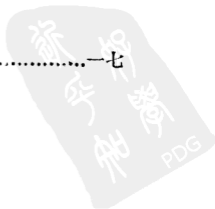
雨花台.....	一三
題顧亭林集.....	一三

民國二年

出京.....	一五
義旗.....	一五
過南京詩四首存二.....	一五

民國三年

題宋墓前曰嗚呼宋教仁先生之墓.....	一七
---------------------	----





---

右 任 詩 存

---

酒後有懷非勿幕王麟生程搏九.....	一七
彰儀門外視同學茹懷西之柩.....	一八
五月五日遊三貝子花園弔宋漁父.....	一八
題憲法起草委員會紀念墨蹟.....	一八
與友人過天安門.....	一九
社稷壇五七國恥紀念大會.....	二〇
出京.....	二〇
再過南京雜詩.....	二〇
弔沈縵雲.....	二一

民國四年

春感.....	二三
題王一亭爲余書像.....	二四
程白葭兄移精忠柏斷節於西湖岳墳屬爲賦之.....	二四
民立七哀詩.....	二五



---

右 任 詩 存

---

民國五年

君馬黃.....	二九
津浦道中.....	三〇

民國六年

汴洛道中.....	三一
嶧函道中.....	三一
潼關道中.....	三二
二華道中.....	三二
昭陵石馬歌.....	三三
贈茹卓亭.....	三七
弔盧慧卿.....	三七
過渭.....	三八
江舟有感.....	三八



---

右 任 詩 存

---

民國七年

歸里過汾河.....	三九
夾馬口弔樊靈山宋相臣.....	三九
吳王渡.....	三九
禹門渡.....	四〇
宜川道中.....	四〇
夜宿宜川讀縣志.....	四一
延長紀事.....	四一
延長至延安道中.....	四二
與王子元謁橋陵遇雨.....	四二
題張木生君手拓昭陵石馬.....	四二
題于鶴九畫.....	四三
弔井勿幕.....	四三
附井勿幕秋感八首.....	四四



---

右 任 詩 存

---

民國八年

- 家祭後出城有懷勿幕.....四七  
春雨.....四七

民國九年

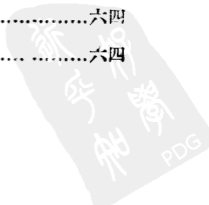
- 高陵道中.....四九  
郊行.....四九  
聞鄉人語.....四九  
出遊唐園.....五〇  
唐園和李子逸韻.....五〇  
唐園歸途子逸索詩.....五一  
廣武將軍碑復出土歌贈李君春堂.....五一  
二月二日與俊夫祥生子中協度仁天江澄孟濱春堂  
子逸諸公遊高陵城東三陽寺寺舊有學校今廢矣  
.....五七

右 任 詩 存

爲程星五題文文山詩軸.....	五八
附原詩.....	五八
和于鶴九中秋望月詩步約.....	五八
紀廣武將軍碑.....	五九
落雲台至起雲台.....	五九
起雲台至落雲台.....	六〇
遊設禱廟.....	六〇
藥王山除夕雜感二首.....	六〇

民國十年

元日拂曉出遊顯雲台至將軍山山舊有王翦廟今廢 矣.....	六三
山居.....	六三
尋碑.....	六四
遊曬藥場謁滇軍葬陣亡將士處.....	六四



右 任 詩 存

與關子洲李西園同遊耀縣城東.....	六五
再上曬藥場謁滇軍葬陣亡將士處.....	六五
三謁曬藥場滇軍將士公葬處.....	六六
由耀縣歸三原途中書所見.....	六六
由耀縣入三原境有感.....	六七
不寐.....	六七
新莊雜詩.....	六七
題曹印侯小照.....	六八
題靳伯倫小照.....	六九
題耿端人小照.....	六九
題井勿幕小照.....	六九
風雨.....	七〇
中秋夜登城樓.....	七〇
民治學校園雜事詩前十首.....	七〇
民治學校園雜事詩後十首.....	七四

右 任 詩 存

移居唐園詩以紀之.....七七  
獵.....七八

民國十一年

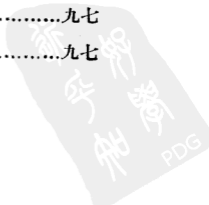
一月十八日淳化道中.....七九  
淳化道雪中追憶唐園之獵寄李子逸茹卓亭田温如  
劉紹文張景秋諸同學.....七九  
方里紀遊詩四首.....八一  
方里紀遊篇之一.....八二  
方里紀遊篇之二.....八四  
柳家灣訪碑得阿史那元方造像並拾得舊瓦上有隸  
書口宮二字.....八五  
柏樹山紀遊.....八六  
內子高仲林送楞女入京成親媵之以詩.....八六  
淳化西行道中.....八七

---

右 任 詩 存

---

武功城外.....	八八
岐山城外.....	八九
過五丈原.....	八九
鳳翔城外晚望.....	八九
靈台道中.....	九〇
崇信道中.....	九〇
竹林寺.....	九一
天水道中.....	九一
清水早發.....	九二
清水道中.....	九二
清水縣麻鞋歌.....	九三
秦嶺.....	九六
度隴雜詩五首.....	九六
張家川.....	九七
隴頭吟.....	九七





右 任 詩 存

- 徽縣早發聞耕者歎息聲.....九八  
略陽.....九八  
陽平關.....九九  
略陽滯雨詠權德輿.....九九  
白水江.....九九  
嘉陵江上看雲歌贈子元省三陸一.....一〇〇  
渝城張家園夕照樓.....一〇三  
題呂天民偶得詩集.....一〇三  
蔣太夫人行述書後.....一〇四  
楚僖孟英結婚後招飲樸安精衛亞子楚僖均有作余  
思鈍而晚成因寫寄同座仲輝望道亨麗濤平並約  
同遊宋園.....一〇五  
讀徐太夫人行狀.....一〇五  
題缶老爲畹華畫梅.....一〇六  
爲秦振夫題其祖水竹畫梅.....一〇六

---

右 任 詩 存

---

爲孫少元題顏書爭坐位帖後.....一〇六

民國十二年

舟出吳淞.....一〇九

三月十四日與登雲自立諸君謁黃花岡遇林子超先

生.....一〇九

詠木棉.....一〇九

過台灣海峽遠望.....一一〇

與曾孟鳴謁黃花岡七十二烈士之墓.....一一〇

海上過鳳岐兵敗紀念日.....一一〇

與卓亭景秋建侯遊西湖追憶宋漁父湯蛰仙二先生

昔年湖上之約.....一一一

靜江兄長年四十六得丈夫子名曰乃鶴爲詩賀之...

.....



民國十三年

- 初訪得廣武將軍碑者爲雷君召卿余作歌贈李君春  
堂因其最先持以贈余也十一年春春堂殉國十三  
年春召卿由澄縣來函海上詳述始末因爲詩贈之  
.....一一三
- 讀史三首.....一一三
- 讀唐詩三首.....一一四
- 讀經一首.....一一五
- 香港逢劉小雲同遊九龍歸小雲以詩見贈因次原韻  
.....一一五

民國十四年

- 京奉道中讀唐風集.....一一七
- 與王陸一遊京南花神廟.....一一七
- 黃河北岸見漁翁立洪流中.....一一七



---

右 任 詩 存

---

民國十五年

黃海雜詩三首.....	一一九
舟入黃海作歌.....	一一九
天明聞船上雞鳴.....	一二〇
望日本海岸.....	一二一
舟入東朝鮮灣.....	一二一
西伯利亞雜詩寄王陸一.....	一二一
西伯利亞雜詩又二首.....	一二三
過貝加爾湖.....	一二三
西伯利亞道中書所見.....	一二四
入歐洲後感懷.....	一二五
車過烏拉山.....	一二五
莫斯科雜詩.....	一二六
歸途過沃木次克.....	一二六
過奧木次克.....	一二七



右 任 詩 存

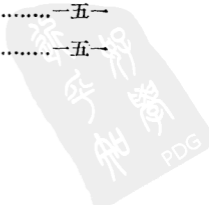
- 再過貝加爾湖.....一二七
- 貝加爾湖邊懷古.....一二八
- 西北利亞雜詩.....一二八
- 過買賣城.....一二九
- 恰克圖至庫倫.....一三〇
- 至諾顏山下蘇珠克圖地方訪二百十二古墓.....一三一
- 訪古墓夜宿招木多中宵不寐出門望月有懷.....一三二
- 附攷查外蒙古土謝圖汗部諾顏山下蘇珠克圖地  
方二百十二古墓記.....一三三
- 出庫倫.....一四二
- 離庫倫後千餘里始見山榆一株上有雀巢  
無數再行百餘里過一華商商店飯後賦此.....一四三
- 外蒙道中二首.....一四四
- 外蒙道中日暮.....一四五
- 留昭蘇稅關數日拾薪煮飯.....一四五

---

右 任 詩 存

---

露宿外蒙兵營.....	一四五
復由外蒙兵營往塞爾烏蘇道中.....	一四六
過塞爾烏蘇.....	一四六
自黑教堂遇險北行至嘎嘎圖.....	一四七
入烏蘭腦包.....	一四七
臨河道中.....	一四八
黃楊木頭十四夜憶內子高仲林.....	一四八
露宿二之店沙漠.....	一四八
邊牆下見雁.....	一四九
磴口中秋.....	一四九
中秋過賀蘭山下.....	一五〇
出寧夏望賀蘭山積雪.....	一五〇
寧夏南行道中.....	一五〇
詠寧夏屬植物.....	一五一
固原道中.....	一五一



右 任 詩 存

邢縣道中	一五一
西安城圍啓後再至藥王山	一五二

民國十六年至民國十八年

與精衛璧君香凝孟餘民誼曾九姑遊廬山	一五三
聞廬山與夫嘆息聲	一五三
鄧尉看桂	一五三
與秉三遊尚父湖	一五四
虞山記遊	一五四
題經頤淵廖何香凝陳樹人合作歲寒三友圖	一五五
鄧尉看桂歸次木瀆與林少和飲於石家飯店	一五五
歸陝次潼關作	一五五
北歸書感	一五六

民國十九年

— 18 —



---

右 任 詩 存

---

送梅曉華赴美	一五七
蘇遊雜詠	一五七
掃墓雜詩	一五八
楊府村省房氏外家	一五九





右任詩存

上海世界書局印行

21  
851.48  
1042

二二大

994766

右 任 詩 存

題 詞

柳亞子

落落乾坤大布衣 傷麟嘆鳳欲安歸

卅年家國興亡恨 付與先生一卷詩

茆店荒雞劍影寒 幾回亡命度兩關

書生已辦憂天下 莫作山東劇孟看

義師惜未下咸陽 百戰無功弔國靈

塞角悲笳窮塞主 可憐我馬已玄黃

倉皇陽夏籌兵日 辛苦鍾山發望時

終遣拂衣歸海上 高風峻節耐人思



右 任 詩 存

秦玄墓畔桂千叢	尙父湖邊夕照紅
稍借江南哀怨地	小戎駟鐵換秦風
廿載盟心結客場	使君風韻鎖難忘
憐余亦有窮途感	才盡江淹鬢未霜

## 右任詩存目次

民國紀元前九年至民國紀元前四年

赴試過虎牢.....	一
孝陵.....	一
馬關.....	二
蒙縣謁杜工部祠.....	二
新安早發.....	二
函谷題壁補前作.....	三
省親出關.....	三
過王覺斯墓.....	四

右 任 詩 存

民國紀元前三年至民國紀元前一年

鄭州感舊題壁二首.....五  
洛陽道中.....五  
洛陽懷古四首存二.....六  
新安懷古.....七  
過渾池秦趙會盟處.....七  
過張茅.....八  
車過靈寶.....八  
入關.....八  
灞橋.....九  
月夜宿潼關見孤雁飛鳴而過.....九  
出關.....九  
葬親出關至園鄉寄程搏九南雪亭周定侯同學楊吟  
海先生周石生妹丈.....一〇

右 任 詩 存

偃師遇雪.....一一  
汜水道中.....一一  
舟入馬關.....一一

民國元年

雨花台.....一三  
題顧亭林集.....一三

民國二年

出京.....一五  
義旗.....一五  
過南京詩四首存二.....一五

民國三年

題朱墓前曰嗚呼宋教仁先生之墓.....一七

右任詩存

酒後有懷井勿幕王麟生程博九.....一七  
彰儀門外視同學茹懷西之柩.....一八  
五月五日遊三貝子花園弔宋漁父.....一八  
題憲法起草委員會紀念墨蹟.....一八  
與友人過天安門.....一九  
社稷壇五七國恥紀念大會.....二〇  
出京.....二〇  
再過南京雜詩.....二〇  
弔沈縵雲.....二一

民國四年

春感.....二三  
題王一亭爲余書像.....二四  
程白葭兄移精忠柏斷節於西湖岳墳屬爲賦之.....二四  
民立七哀詩.....二五

右任詩存

民國五年

君馬黃.....二九  
津浦道中.....三〇

民國六年

汴洛道中.....三一  
朔函道中.....三一  
滄關道中.....三二  
二華道中.....三二  
昭陵石馬歌.....三三  
贈茹卓亭.....三七  
弔盧楚卿.....三七  
過涓.....三八  
江舟有感.....三八

右任詩存

民國七年

歸里過汾河.....三九

夾馬口弔樊靈山宋相臣.....三九

吳王渡.....三九

禹門渡.....四〇

宜川道中.....四〇

夜宿宜川讀縣志.....四一

延長紀事.....四一

延長至延安道中.....四二

與王子元謁橋陵遇雨.....四二

題張木生君手拓昭陵石馬.....四二

題于鶴九畫.....四三

弔井勿幕.....四三

附井勿幕秋感八首.....四四

右任詩存

民國八年

家祭後出城有懷勿幕.....四七

春雨.....四七

民國九年

高陵道中.....四九

郊行.....四九

聞鄉人語.....四九

出遊唐園.....五〇

唐園和李子逸韻.....五〇

唐園歸途子逸索詩.....五一

廣武將軍碑復出土歌贈李君春堂.....五一

二月二日與俊夫祥生子中協度仁天江澄孟濱春堂  
子逸諸公遊高陵城東三陽寺寺舊有學校今廢矣  
.....五七

右任詩存

爲程星五題文文山詩軸.....五八  
 附原詩.....五八  
 和于鶴九中秋望月詩步韵.....五八  
 紀廣武將軍碑.....五九  
 落雲台至起雲台.....五九  
 起雲台至落雲台.....六〇  
 遊祿禱廟.....六〇  
 藥王山除夕雜感二首.....六〇

民國十年

元日拂曉出遊顯雲台至將軍山山舊有王翦廟今廢  
 矣.....六三  
 山居.....六三  
 尋碑.....六四  
 遊曬藥場謁滇軍葬陣亡將士處.....六四

右任詩存

與關子洲李西園同遊耀縣城東.....六五  
 再上曬藥場謁滇軍葬陣亡將士處.....六五  
 三謁曬藥場滇軍將士公葬處.....六六  
 由耀縣歸三原途中書所見.....六六  
 由耀縣入三原境有感.....六七  
 不寐.....六七  
 新莊雜詩.....六七  
 題曹印侯小照.....六八  
 題靳伯倫小照.....六九  
 題耿婦人小照.....六九  
 題井勿幕小照.....六九  
 風雨.....七〇  
 中秋夜登城樓.....七〇  
 民治學校國報事詩前十首.....七〇  
 民治學校國報事詩後十首.....七四

右 任 詩 存

移居唐園詩以紀之.....七七  
獵.....七八

民國十一年

一月十八日淳化道中.....七九  
淳化道雪中追憶唐園之獵寄李子逸茹卓亭田溫如  
劉紹文張景秋諸同學.....七九  
方里紀遊詩四首.....八一  
方里紀遊篇之一.....八二  
方里紀遊篇之二.....八四  
柳家灣訪碑得阿史那元方造像並拾得舊瓦上有隸  
書口宮二字.....八五  
柏樹山紀遊.....八六  
內子高仲林送甥女入京成親媵之以詩.....八六  
淳化西行道中.....八七

右 任 詩 存

武功城外.....八八  
岐山城外.....八九  
過五丈原.....八九  
鳳翔城外晚望.....八九  
靈台道中.....九〇  
崇信道中.....九〇  
竹林寺.....九一  
天水道中.....九一  
清水早發.....九二  
清水道中.....九二  
清水縣麻鞋歌.....九三  
秦嶺.....九六  
度隴雜詩五首.....九六  
張家川.....九七  
隴頭吟.....九七



右任詩存

徽縣早發聞耕者歎息聲.....	九八
略陽.....	九八
陽平關.....	九九
略陽滯雨詠權德輿.....	九九
白水江.....	九九
嘉陵江上看雲歌贈子元省三陸一.....	一〇〇
渝城張家園夕照樓.....	一〇三
題呂天民偶得詩集.....	一〇三
蔣太夫人行述書後.....	一〇四
楚僮孟芙結婚後招飲樸安精衛亞子楚僮均有作余 思鈍而晚成因寫寄同座仲輝望道亨麗澤平並約 同遊宋園.....	一〇五
讀徐太夫人行狀.....	一〇五
題缶老爲晚華畫梅.....	一〇六
爲秦振夫題其祖水竹畫梅.....	一〇六

右任詩存

爲孫少九題顏書爭坐位帖後.....一〇六

民國十二年

舟出吳淞.....	一〇九
三月十四日與登雲自立諸君謁黃花岡遇林子超先 生.....	一〇九
詠木棉.....	一〇九
過台灣海峽遠望.....	一一〇
與曾孟鳴謁黃花岡七十二烈士之墓.....	一一〇
海上過風岐兵敗紀念日.....	一一〇
與卓亭景秋建侯遊西湖追憶宋漁父湯蛰仙二先生 昔年湖上之約.....	一一一
靜江兄長年四十六得丈夫子名曰乃鶴爲詩賀之... .....	一一一

右 任 詩 存

民國十三年

初訪得廣武將軍碑者爲雷君召卿余作歌贈李君春  
堂因其最先持以贈余也十一年春春堂殉國十三  
年春召卿由澄縣來函海上詳述始末因爲詩贈之  
.....一一三  
讀史三首.....一一三  
讀唐詩三首.....一一四  
讀經一首.....一一五  
香港逢劉小雲同遊九龍歸小雲以詩見贈因次原韻  
.....一一五

民國十四年

京奉道中讀唐風集.....一一七  
與王陸一遊京南花神廟.....一一七  
黃河北岸見漁翁立洪流中.....一一七

右 任 詩 存

民國十五年

黃海雜詩三首.....一一九  
舟入黃海作歌.....一一九  
天明聞船上雞鳴.....一二〇  
望日本海岸.....一二一  
舟入東朝鮮灣.....一二一  
西伯利亞雜詩寄王陸一.....一二一  
西伯利亞雜詩又二首.....一二三  
過貝加爾湖.....一二三  
西伯利亞道中書所見.....一二四  
入歐洲後感懷.....一二五  
車過烏拉山.....一二五  
莫斯科雜詩.....一二六  
歸途過沃木次克.....一二六  
過奧木次克.....一二七

右任詩存

再過貝加爾湖.....	一二七
貝加爾湖邊懷右.....	一二八
西北利亞雜詩.....	一二八
過買賣城.....	一二九
恰克圖至庫倫.....	一三〇
至諾顏山下蘇珠克圖地方訪二百十二古墓.....	一三一
訪古墓夜宿招木多中宵不寐出門望月有懷.....	一三二
附攷查外蒙古土謝圖汗部諾顏山下蘇珠克圖地方二百十二古墓記.....	一三三
出庫倫.....	一四二
離庫倫後千餘里始見山榆一株上有雀巢 無數再行百餘里過一華商商店飯後賦此.....	一四三
外蒙道中二首.....	一四四
外蒙道中日暮.....	一四五
留昭蘇稅關數日拾薪煮飯.....	一四五

右任詩存

露宿外蒙兵營.....	一四五
復由外蒙兵營往塞爾烏蘇道中.....	一四六
過塞爾烏蘇.....	一四六
自黑教堂遇險北行至嘎嘎爾.....	一四七
入烏蘭腦包.....	一四七
臨河道中.....	一四八
黃楊木頭十四夜憶內子高仲林.....	一四八
露宿二之店沙漠.....	一四八
邊騎下見雁.....	一四九
磴口中秋.....	一四九
中秋過賀蘭山下.....	一五〇
出寧夏望賀蘭山積雪.....	一五〇
寧夏南行道中.....	一五〇
詠寧夏屬植物.....	一五一
固原道中.....	一五一

右 任 侍 存

邢縣道中……………一五一  
西安城園啓後再至藥王山……………一五二

民國十六年至民國十八年

與精衛璧君香凝孟餘民誼曾九姑遊廬山……………一五三  
聞廬山與夫嘆息聲……………一五三  
鄧尉看桂……………一五三  
與秉三遊尙父湖……………一五四  
虞山記遊……………一五四  
題經顏淵廖何香凝陳樹人合作歲寒三友圖……………一五五  
鄧尉看桂歸次木瀆與林少和飲於石家飯店……………一五五  
歸陝次潼關作……………一五五  
北歸書感……………一五六

民國十九年

右 任 詩 存

送梅曉華赴美……………一五七  
蘇遊雜詠……………一五七  
掃墓雜詩……………一五八  
楊府村省房氏外家……………一五九



影 攝 前 元 紀 國 民

# 右任詩存

民國紀元前九年至民國紀元前四年

## 赴試過虎牢

雲亂雁聲高	書生過虎牢
相持無楚漢	憑杖讀離騷
黃土懸千尺	青天驚一毫
回頭應笑倒	歃血眾人豪

## 孝陵

虎口餘生敢自矜	天留鐵漢卜中興
---------	---------

右 任 詩 存

短衣散髮三千里 亡命南來哭孝陵

馬 關

雨中山好青如黛 浪裏花開白似綿  
活潑游魚吞曉日 迴翔飛鳥逐漁船  
舟人指點譚遺事 豎子聲驕唱凱旋  
一髮青山渺無際 神州再造更何年

鞏縣謁杜工部祠

鞏梅遲我已經年 今日梅開拜座前  
河洛交流歸大海 齊梁諸子等寒蟬  
舊居幾處爭粉社 遺集千家作鄭箋  
日暮鄉關渺何處 杜陵西望一潸然

新安早發



民 國 紀 元 前 攝

右任詩存

月映蒼崖天慘慘	風搖敗葉冷蕭蕭
黃沙眯目人如淚	頑石攙車馬不驕
痛定降兒思故國	魂歸元老泣前朝
浪遊銷盡輪蹄鐵	只此神州恨未消

函谷題壁補前作

片雲飛去又飛還	眼底雄關亦等閒
書劍蕭蕭驚歲月	恩仇種種指河山
城荒霸氣千年盡	地陡殘陽一瞬間
弔古懷人詩待補	三年風雨鬢毛斑

省親出關

太華雲開落彩虹	西風送我出關東
月明峽石嘶征馬	雪暗張茅叫斷鴻
枯木寒鴉皆畫稿	殘山廢水一髯翁



存 詩 任 右

二陵休墮秦人淚 戰血千年蝕土紅

慕 斯 覺 王 過

孟津河畔草迷茫 下馬荒墳弔夕陽  
呂史當年俱殉國 待公泉下見高皇



在上海震旦學院攝影後排右方立者第二人即于先生中半者馬淵伯先生

右任詩存

民國紀元前三年至民國紀元前一年

鄭州感舊題壁二首

鈞黨聲銷事已陳	餘生再到話悲辛
窮途僕御爲知己	客路梅花亦故人
重疊雲山連梓里	零丁涕淚累哀親
鷓鴣雪裏長征感	遲暮于郎負此身

亡命重來認舊蹤	人歌人哭兩相逢
曾牧斷骨埋騶馬	更祝中原起臥龍

——曾道會時，死二馬於此。——

歲晚關前三日雪	月明笛外一聲鐘
百年事業吾誰與	師友乾坤與衆備

洛陽道中

右任詩存

風雨何年會 洛陽人已空  
帝王半存廢 盜賊亦英雄  
雲落烏頭白 霜飛雁淚紅  
東征果何日 老馬苦嘶風

洛陽懷古四首存二

——時西后與光緒先後逝世。——

聲徹北邙薤露歌 素車白馬徧山阿  
塚中枯骨英雄少 天下瞎兒帝子多  
龍種幾人悲鐵券 鶯花無地兌銅駝  
石郎休唱思歸引 既誤神仙又負他

楚楚翩翩祖與袁 神州塗炭自高軒  
經綸獨慣當東道 變理惟能閉北門  
盟府丹青亡正氣 故宮金狄朕啼痕

右任詩存

山崩洛應真奇變 構亂渾忘骨肉恩

新安懷古

埋恨芒芒降子弟 欺人種種莽英雄  
城南鬼哭知何罪 伯業天亡論不公  
石子澗前流水赤 爛柯山畔土花紅

——石子澗，亦號赤水。——

——沿途土多紅色。——

乘時我欲爲湯武 一掃千年霸者風

過灑池秦趙會盟處

游子思親萬里情 渾忘夷險重行行  
青山似我長途瘦 白髮欺人壯歲生  
剽客相逢都揖讓 黃河作伴不淒清  
會盟台畔蕭蕭月 笑汝歸秦失舊盟

過張茅

無以為家笑我歸	投林倦鳥苦偷飛
二陵風雨雙蓬鬢	兩戒河山一布衣
縮地田園來咫尺	祈天日月照庭闈
夢中真個還鄉樂	昨夜依稀款板扉

車過靈寶

路近潼關笑口開	烏頭未白得歸來
南經制作廬陵墓	北去蒼茫望子台
師友凋零心更苦	家山迢遞夢先回
萊衣默祝天如願	劫後倉皇轉自哀

入 關

虎口餘生再入關	烏頭未白竟生還
---------	---------

垂青無幾垂橋柳	鼓掌一人太華山
慷慨歌謠靈氣在	憂愁風雨鬢毛斑
倚闌朝暮知何似	心苦莫論世網艱

灞 橋

吾戴吾頭竟入關	杜鵑聲裏一開顏
灞橋兩岸青青柳	曾見亡人幾個還

月夜宿潼關見孤雁飛鳴而過

河聲夜靜響猶殘	孤客孤鴻上下看
大野飛鳴何所適	中原睥睨一憑欄
敲關月落天將曉	故國春歸夢已闌
馬鬣百年終有恨	南來况復路漫漫

出 關

右任詩存

目斷庭闈愴客魂	倉皇變姓出關門
不為湯武非人子	付與河山是淚痕
萬里歸家纔幾日	五年蹈海莫深論
長途苦羨西飛鳥	日暮爭投入故村

葬親出關至闕鄉寄程搏九南雪亭周  
定侯同學楊吟海先生周石笙妹丈

去歲省親病	潛行入關內
兒留親不安	親老兒莫待
今歲復歸來	徒灑孤兒淚
牽車古所哀	守墓今非智
麻衣殉墓中	匆匆避緹騎
月明思子台	往來慚無地
為念諸故人	納亡多高義
餘生報無時	中夜不能寐

右任詩存

偃師遇雪

重重險阻出崑函	客入胥靡道又峻
霜葉乘秋迷古路	雪花和淚濕征衫
中原雲風毛應滿	大澤長蛇吻已饑
四海頌冤今莫問	祇餘搔首弔巫咸

汜水道中

落日愁歌雍露行	中原鶴唳客南征
望中何事添離恨	夢裏無端起哭聲
馬滑霜蹄殘雪散	鷓鴣戰壘斷霞明
雄關四顧增惆悵	老木參天一雁橫

舟入馬關

蒼翠灣復灣 舟行入馬關

右 任 詩 存

紅旗翻碧海 白浪擁青山  
痛定行人血 羞開壯士顏  
况兼亡國恨 觸處淚潸潸



在 日 本 攝 影



民國元年在南京政府時攝

存 詩 任 右

民國元年

雨花台

鐵血旗翻掃虜塵 神州如晦一時新  
雨花台下添新淚 白骨青燐舊黨人

題顧亭林集

沉鱗落羽風雲晚 歎鳳傷麟著述多  
世以變風爲雅頌 老猶零雨走關河  
柄柄南北東西路 慘慘黃農虞夏歌  
爲問待庵能待否 秦人清議近如何



攝 年 元 國 民



右任詩存

民國二年

出京

十年新膽風雲夢	萬里河山鼓角聲
怨氣千尋仍未解	勞歌一曲不勝情
何堪西狩傷麟鳳	忍見東阿泣豆羹
我佛無言應一笑	長虹莽莽九州橫

義旗

存且偷生死更悲	余收爾骨爾尤誰
平生慷慨爭民黨	一戰倉皇委義旗
龍虎連營思將帥	流亡載道泣孤嫠
良心痛苦吾能說	又到鷄鳴午夜時

過南京詩四首存二

右 任 詩 存

燕去堂空甲第荒	最傷心是大功坊
猶傳立馬鍾山日	開國威儀動萬方
虎視龍興一瞬間	鷄鳴不已載愁還
江山冷眼爭迎送	人去人來兩鬢斑

右 任 詩 存

民國三年

題宋墓前曰嗚呼宋教仁先生之墓

當時詛楚祀巫咸	此日懷殷弔比干
片石爭傳修古恨	大書留與後人看
殺身翻道名成易	謀國全求世諒難
如斗餘杭漁父冢	墳前和淚爲君刊

——大興筆漁父二大字，余得之藏於碑前。——

酒後有懷井勿幕王麟生程博九

重來話舊倍銷魂	塵起秋風瀆淚痕
欲寄纏綿無好信	不堪惆悵又黃昏
迎階花放思君子	未老途窮念故園
愁到閒鷗天亦醉	蒼髯如戟看中原

彭儀門外視同學茹懷西之柩

——君名欲可。——

轉眼滄桑又一年 憐余後死益悽然  
九泉休道人情薄 老友吞聲送紙錢

五月五日遊三貝子花園弔宋漁父

忍淚看天哽不言 行吟失計入名園  
美人香草俱零落 獨立斜陽弔屈原

佳節淒涼愁裏過 雜花婀娜雨中鮮  
栖栖老友今頭白 手撫蒼龍一泫然

——公樹一松於園中。——

題憲法起草委員會紀念墨蹟

星散局翻騰劫塵 神州開道又傷麟  
書生莫望天壇哭 附鳳攀龍自有入

生死升沉尚可稽 忠奸賢佞自難齊  
祈年殿上休回首 大好河山日已西

失計阿誰倒太阿 漁人網集又張羅  
玄黃水火成何濟 徒爲蒼生負痛多

移植香閣豈易開 黨人何事便心灰  
金牛憲典盈天下 盡是英雄血換來

與友人過天安門

我亦徘徊不忍行 黃塵清水若爲情  
天安門外花淒豔 腸斷詞人認馬纓

社稷壇五七國恥紀念大會

痛定才聞說怨恫	血書張徧古壇中
名花委地驚離淚	老木參天戰烈風
捐讓征誅成鹿夢	玄黃水火忘漁翁
最傷心是西顏日	返射宮牆分外紅

出 京

淚漬征衫墨似縑	大風吹散劫餘灰
窮途白眼親兼舊	歸路青天雨又雷
幾見神龍愁失水	始知屠狗少真才
無端宣武門前嘯	聲滿人寰轉自哀

再過南京雜詩

大好江山作戰場	幾經水火幾玄黃
---------	---------

雨花台下淚新塚	遠近高低盡國瘡
---------	---------

滿目瘡痍莫倚樓	淒風苦雨徧神州
先生自分愁中老	淚眼湖山弔莫愁

十萬人家動地哀	多情處處野花開
莫愁湖畔英雄骨	乞得佳人冷炙來

山圍古國人安在	淚濕新亭客更多
再造神州吾未老	是非歷歷指山河

弔沈縵雲

——君名昭戀，余辦民呼，民立報時，多得助力。——

同遭傷心禍	難為後死身
招魂千萬里	墮淚往來人

右 任 詩 存

禹甸天方晦 湘榮痛未涇  
更深知己感 北望哭江濱

右 任 詩 存

民國四年

春 感

潮漲潮平信有因 花開花落總無塵  
文章到底成何用 不哭秋風轉哭春

亂餘賓客搜亡命 赦後英雄恥故鄉  
不信遺民闕古古 萬千劫外看滄桑

蹈海魂歸尚涕零 義兼師友泣湘臺  
阿兄殉國全家燼 老母扶尸不忍聽

——弟 攝 守 仁 篤 生 共 兄 名 德 麟 字 性 恂 ——

文憲中原野史亭 百年恩怨倘分明  
黨人休望黃流哭 幾個書生贈上聊

右 任 詩 存

日暮誰揮一旅戈 東南鶴唳足風波  
海邊精衛冤禽滿 夢裏國殤死友多

題王一亭爲余畫像

零雨東山又一時 回頭莫遣百年悲  
于思似我還非我 獨立蒼茫有所思

歌哭無端不世情 蒙戎匍匐惜先生  
滄桑幾度人將老 一種傷心畫不成

程白葭兄移精忠柏斲節於西湖岳墳屬  
爲賦之

破碎精忠柏 參天氣不吞  
在人爲武穆 於樹配冬青  
有節皆如石 無香亦自馨

右 任 詩 存

還悲同殉國 移奠接英靈

民立七哀詩

——哀民立報社友也。——

不遑將母生投海 無以爲家死伴兄

——君母尙在兄蓋爲袁所殺——

地老天荒魂返否 義氣師友哭先生

——長沙楊守仁先生。——

清才雅藻世無倫 別有傷心號僂民

——君自號僂民。——

猶記先生臨去語 枉拋心力作詞人

——江都王毓仁先生——

雲書求客欲亡秦 獨仗精誠感黨人

一死於今關大計 東南半壁永沉淪

右任詩存

——合恩范光啓鴻仙。——

黃農虞夏眞無望 水火玄黃洵有期  
地慘天愁人亦瘁 延陵墓上哭多時

——桃源宋敦仁鍾初。——

仗義扶危感一生 三民終奏大功成  
青蠅墓上今猶昔 遼海魂歸有哭聲

——無錫沈懋昭履雲。——

不哭窮途哭戰場 耗完心血一徐郎

——君死時常誦直和白此句。——

九京應共冤魂語 黃土無情葬國魂

——金壇徐天復血兒。——



右任詩存

十年新膽餘亡命 百戰河山弔國魂  
霸氣江東久零落 英雄事業自堂堂

——吳興陳其美英士。——

津浦道中

綺閣瓊樓別有春 青青草色與時新  
如何脯鳳龜龍後 尙祝齊州產聖人

民國六年

汴洛道中

中原豺虎滿 客又洛陽行  
大漠隨車轉 雄關入眼平  
風雲遲季子 肝膽託侯生  
清水黃塵外 無勞問戰爭

崤函道中

黃河幾折繞函關 關上行人匹馬還  
萬點寒鴉天欲暮 飛投對岸中條山  
灑賦行人感不消 崤函歸路日漸條  
材官幾個迎桃葉 春雨何時潤麥苗



民國五年

君馬黃

君馬黃	我馬白
聽妾歌一曲	花間洛陽陌
花豔似妾豔	妾豔如郎面
蝴蝶舞回風	楊柳搖金線
雙雙如玉人	夾設會相見
相見不相親	離時復悲戀
再見渺難知	低頭空淚垂
夜夜偏有夢	春風入羅幃
妾本良家子	郎非輕薄兒
韶華徒自誤	老大翻傷悲
寄語少年子	令無曠佳期

津浦道中

綺閣瓊樓別有春 青青草色與時新  
如何肺鳳龜龍後 尙祝齊州產聖人

民國六年

汴洛道中

中原豺虎滿 客又洛陽行  
大漠隨車轉 雄關入眼平  
風雲遲季子 肝膽託侯生  
清水黃塵外 無勞問戰爭

崤函道中

黃河幾折繞函關 關上行人匹馬還  
萬點寒鴉天欲暮 飛投對岸中條山  
憑弒行人感不消 崤函歸路日蕭條  
材官幾個迎桃葉 春雨何時潤麥苗

右 任 詩 存

開國爭傳血戰功 名伶殉國古無同  
老來文字雜歌哭 駐馬函關弔小紅

——小紅姓李，爲關中名武旦，元年戰死函谷關。——

偶聽鄉詞慘不敵 盲翁生長古王官  
流離負鼓關門外 淚濕河山餽口難

潼關道中

慷慨同仇有古風 開關幾次出關東  
河聲嶽色天驚句 寫出秦人血戰功

世亂爭雄爲要害 時平設險亦嚴疆  
桃花紅雨梨花雪 飛去飛來傍戰場

二華道中

右 任 詩 存

振臂一呼十五年 風雲子弟各爭先  
如何失國王山史 苦勸人耕華下田

自古爭傳耕戰場 買刀賣積亦尋常  
亭林老作關前客 辜負關河淚數行

昭陵石馬歌

秦王百戰壹華夏  
詔起山陵九纓下  
陪陵諸將盡元功  
侍立名王均降者  
從征六駿惠養難  
飛矢被體存者寡  
圖形勒石戟門前  
相見英雄與名馬

右 任 詩 存

嗟余垂老搜遺編  
去國十載方南旋  
盜賊兵火文物燬  
劫灰又到昭陵前  
陵中鐵匣雖出土  
陵前石馬還留蹤  
氣吞三山颯露紫  
手拔流矢邱行恭  
黃質黑喙拳毛騮  
身中九箭傷如麻  
可憐千百載古刻  
將軍捆載酬豪家

——陸遜事私載出關，贈要人。——

餘者青驄特勒驃  
白蹄烏與什伐赤

右 任 詩 存

追風駿足多傷殘  
傷殘莫保尤足惜

——馬足多傷——

將軍戰敗東出關  
黃金駿骨購不還  
抱守殘缺圖書府  
纔移名物藏名山  
楊君老去丁君死

——楊君石齋·丁君輔仁。——

拓石關中無名士  
懸金四訪莫敢磨  
龍種王孫撲臂起  
奕奕生氣毫釐見  
英姿颯爽猶酣戰  
似聽鏡吹耳生風

右任詩存

如聞鞞鼓血流汗  
當年控弦角力數十雄  
馳驅中原如奔電  
祇今失羣翻首復騰驤  
蟬翼遺法開生面  
畫工可是右相閣  
殷歎名筆惜不見  
傷今弔古幾摩挲  
回首神京重聞亂  
噫吁嘻  
陵前晚照紅復紅  
鳳臺龍翔廢闕宮  
太白山頭君休望  
龍媒一逝羣爲空  
英術英靈呼欲起

右任詩存

風雲會合連錢隄  
長驅鐵騎數十萬  
蹴踏大陸除羣雄  
嗚呼  
安得長驅鐵騎數十萬  
蹴踏大陸除羣雄

贈茹卓亭

春雨春風海又桑 偶頭酒熟百花香  
功名昆季羞爲伍 黃犬東門茹二郎

弔盧慧卿

——張紫學君之夫人。——

暮風朝陽一再驚 東南日暮復西征  
入關知舊多零落 禮罷國殤弔慧卿

過渭

十五年來夢一場 神州回首幾滄桑  
先生老作江南客 何事傷心到故鄉

江舟有感

孤客西來風又起 大江東去月常明  
曾經武漢傷心地 時聽魚龍弄水聲  
逝者如斯行載酒 埋愁何處妄譚兵  
小姑嫁後歸寧未 陌上花開憶舊盟

民國七年

歸里過汾河

我亦橫汾感逝波 故園消息近如何  
夕陽西下無來雁 匹馬南歸竟渡河  
道遠車悲炭坂峻 雲開雨傍太行過  
山川滿目今猶昔 后土祠前禱且歌

夾馬口弔樊靈山宋相臣

——宋死于萬泉高碑廟，樊被擄于聞喜縣北，死于太原。——

樊宋英魂渺何處 馬前風雨恨難消  
河東一戰如何記 釀酒黃流唱大招

——六年復辟之役，二公從陝軍由此渡河而死。——

吳王渡

右 任 詩 存

風鶴驚心渡不開 角聲飛上禹王臺  
老翁家住黃河岸 曾說秦兵幾次來

禹門渡

禹廟東西並賽神 禹門三日滯行人  
護巢蒼雉愁縉嶽 撲面黃沙雜戰塵  
天地平成終有待 魚龍寂寞恐非真  
呂梁山上夕陽好 返射鑿痕入眼新

宜川道中

隱隱黃河綫一痕 馬前東望日將昏  
風雲晉塞連秦塞 波浪龍門接孟門  
高祖山頭餘破廟 將軍台下只荒村  
川原如錦人如醉 福地花開不忍論

——福地，亦作福粟。——

右 任 詩 存

夜宿宜川讀縣志

盈野蒿麻欲刺天 孤城小住日如年  
將軍族貴分茅土 公主園荒稅粉錢  
要塞空開屏上郡 黃河多事下三川  
七郎山上淒淒月 獨照愁人夜不眠

延長紀事

山下爲城山上寨 疲殫破帽過延長  
開天美利穿油井 亂世降兒產義王  
——孫可望——  
戍卒一年三潰散 居民十室九逃亡  
故人高燭頻相贈 金鎖關南照故鄉

——由雲飛君以延長縣中所出大燭相贈——

延長至延安道中

濯筋河畔草迷茫 故事遺民語不詳  
籍裏鳴蟬山谷響 柳陰繫馬水泉香

——上人呼殿林口箭林。——

世無韓范真儒將 地是金元舊戰場  
兵火連年人四散 平川歷歷上田荒

與王子元謁橋陵遇雨

路下雕陰灣復灣 鸞翔鳳翥見橋山  
彌天風雨傷今日 垂老崎嶇過此間  
獨創文明開草昧 高懸日月識天顏  
千霄古柏摩挲徧 掛甲何人亦等閒

題張木生君手拓昭陵石馬

六駿失羣圖尚在 追憶名蹟感無窮  
紛披矢石因酣戰 鞏勒山陵爲報功  
生繫降王關內外 死陪勳舊關西東  
傳神賴有張公拓 猶似當年照九瓏

題于鶴九畫

中渭橋前大麥黃 將軍作勢取咸陽  
吾家老鶴真瀟灑 駐馬河干畫戰場

弔井勿幕

——七年十一月廿一日，被難興平之南仁村。——

十日纔歸先軫元 英雄遺憾復何言  
渡河有恨收羣賊 殉國無名哭九原  
秋興詩存難和韻 南仁村遠莫招魂  
還期破敵收功日 特起邱山擬宋園



右任詩存

——公死前以和杜秋興八首見示——

附非勿幕秋感八首

——步少陵秋興韻——

葉落鴻歸露滿林	河山四戰氣嚴森
白旗苒苒摩天漢	玄鳥飛飛戀歲陰
因果能收瓜李種	恩仇不解虎狼心
征夫莫問寒衣就	腸斷西風野戍砧
黃金台上隼旗斜	新令中央集國華
永憶三千稱上客	休驚八月泛靈槎
清絲夜半隨悲管	戍鼓天邊入暮笳
莫笑他年舊賓侶	風前猶作傲霜花
獨上高樓送落暉	東方月出轉喜微

右任詩存

只言明鏡桂初發	無那勁風雲還飛
白帝佳兵愁事往	嫦娥竊藥恐心違
持梁躡馬已應足	淮水湯湯淮土肥
長安賭郡一先棋	得失分明動客悲
冀北秋空無馬日	中原月朗獲梟時
白衣未送先王老	翠羽還爭五霸馳
只有夷齊能採蕨	古來忠孝耐人思
誰憐愚叟苦移山	梅嶺崔嵬戰伐間
尙有衣冠存異地	何無羽葆入天關
清流已作黃流侶	入國猶爲去國顏
太息秋風真冷落	朝朝催盡鬢毛斑
知在峨眉最上頭	長江東下萬方秋

右任詩存

國容定許羣魔息 天意應憐萬姓愁  
將士霜前飛鷲隼 樓船日下汎輕鷗  
漢家自古偏安地 莫守岷江棄九州

龍戰玄黃未奏功 英魂處處悼歌中  
九關虎豹千山雪 四海幡幢萬里風  
朝市翻成滅血碧 江山盡是火旗紅  
奸雄未盡英雄少 歲晚風悲馬上翁

天設終南巨廓遊 山陰可有小塘波  
頻年苦奏南冠曲 萬里情殷越鳥枝  
羽檄曾傳三令下 文章應許北山移  
深林未遂平生志 獨臥吟成草露垂

右任詩存

民國八年

家祭後出城有懷勿慕

雲暗關門間道回 戎衣墨絰鬢雙摧  
何堪野祭還家祭 不獨人哀亦自哀  
桴鼓經年空涕淚 河山四戰一徘徊  
東征大業憑誰共 喚得英靈去復來

春 雨

—三月，戰事甚烈。—

偶亂天傾雨一犁 饑鷹啄鼠事難齊  
相期天地存肝膽 猶見關山動鼓鼙  
河漢聲流神句轉 崑崙雲壓萬峯低  
花開陌上矜柔豔 勒馬郊原路不迷

民國九年

高陵道中

雪後高陵道	平原剪剪風
新墳春草碧	故壘夕陽紅
高骨元戎馬	號天四野鴻
老兵莫垂淚	不日定關中

郊 行

芳草復芳草	戰場連戰場
自然生涕淚	何況見流亡
麥稿天無雨	墳增國有殤
炊烟添幾處	詎忍說壺漿

聞鄉人語

右 任 詩 存

兵革又凶荒 三年鬢已蒼  
野猶橫白骨 天復降玄霜  
戰士祈年稔 鄉民祭國瘡  
秦人爾何舉 殺戮作耕桑

出遊唐園

——園爲唐時李氏園故址，今名牛耕園。——

名園千載今餘幾 幾代名人來看花  
老木參天巢鶴鶴 長藤踞地走龍蛇  
誰馳百戰玄黃馬 莫打三春子母鴉  
菜子花香麥生浪 宜人美景是農家

唐園和李子逸韻

兵革凶荒酒一杯 萬花如錦淚頻催  
名園落莫春猶到 賢主飄流客始回

右 任 詩 存

——園主劉子康新自南歸。——

壁上題詩羞認舊 池邊照影恐生哀  
紅梅曾識江南豔 不爲朔風竟晚開

唐園歸途子逸索詩

結軌遊城北 田園興倍長  
春寒麥苗瘦 日暖菜花香  
歎歲蒼鷹飽 歸途餓馬強  
詩成招白也 爲我一評量

廣武將軍碑復出土歌贈李君春堂

——時李君以長纜，研究古物，居魯橋家中。——

字內存秦碑  
鄧艾與廣武  
鄧碑在蒲城

右任詩存

— 鄧太尉碑 —

完如新出土

廣武將軍不復見

著錄謂在宜君縣

— 關中金石記，稱在宜君 —

碑版規模啓六朝

寰宇聲價邁二爨

僧燬化度鬼猶哭

雷轟薦福神應眷

七年躍馬出山城

披荆斬棘搜求徧

老吏爲言久無蹤

前朝敝邑有懸案

憲齋學使駐征輶

雷霆萬鈞徵邦憲

右任詩存

小民足滿山谷中

頑石無言留後患

又云上郡石理粗

日消月燦或漫漶

不然父老畏差徭

或埋或棄或培斷

自從改革興兵戎

如毛羣盜滿關中

天荒地變文物燼

存者難保搜何功

我聞吏語增悲哽

仗劍歸來結習屏

李君忽出碑一通

部大曾大字完整

驚詢名物何處來

右任詩存

爲道新出白水境  
出土復湮百餘年  
金石學者眼爲穿  
昔人誤記後人覓  
掘徧宜君郭外田

——余六年，在宜君城外，訪尋一次。——

我與賢者別離久  
持贈真如獲瓊玖  
中夜繞屋起徬徨  
疑似之際頻搔首  
世事新潮復舊潮  
知君身世很難消  
何堪回首添新淚  
不盡傷心唱大招  
凄其朋友餘僧子

右任詩存

寂寞家山念魯橋  
吾聞至人在天下  
入水不濡火不化  
亦猶至寶藏山阿  
千年出土光騰射  
偶作無益遺有涯  
莫拋心力於插架  
松談閣滿學郭髯  
敦物山高比趙大  
君不見士禮戶中宋一塵  
拜經樓上元十駕  
每齋篋齋并散遺  
天一結一近論價  
雲煙過眼有何常  
出入半生我乃罷

右任詩存

老見異物眼復明  
現身說法君休訝  
歌成爲君更放歌  
關中金石近如何  
石馬失羣超海去

——昭陵六馬中拳毛騶，風露紫，四年後

盜竄入美國費拉德費亞博物院。——

寶鼎出現爲賊訛

——王飛虎得巨鼎於陸述章，後不知去向。——

慕容文重庚開府

——咸陽復出土慕容恩碑，庚信獨文見集中。——

道家像貴姚伯多

——耀縣出土，道家造像。——

增以廣武尤奇絕

夫蒙族人文化堪研磨

右任詩存

戎幕風淒日色黃  
西北秋老劍生霜  
年荒時難人憔悴  
豈徒掩卷悲流亡  
珍藏半半樓中物  
——擔挑換米糧

二月二日與俊夫祥生子中協度仁天  
江澄孟濱春堂子逸諸公遊高陵城東  
三陽寺寺舊有學校今廢矣

載酒三陽寺 尋碑興倍增  
民窮先廢學 廟破竟無僧  
造像搜頻得 浮圖倦未登

——是日得唐造像十餘。——

歸途書所見 哀雁過高陵

爲程星五題文文山詩軸

肅穆瞻文墨	艱危見性情
公會全大節	我亦撫饑兵
聲伎同知悔	茅簷尙不驚
丈夫自勤事	何必計前程

附原詩

江黑雲寒閉水城	饑兵守堞夜頻驚
此時自在茅簷下	風雨安眠聽柝聲

和于鶴九中秋望月詩步韻

餘子君猶上下牀	當年躍駿氣難量
早知關內聲名大	何事山中歲月長
班史昔曾譏馬史	越王今忘報吳王

可憐佳節雲遮月 和韻詩成爲補亡

紀廣武將軍碑

廣武碑何處	彭衙認繡痕
地當蒼聖廟	石在史官村
部大官難考	夫蒙城尙存
軍中偏有暇	稽古送黃昏

落雲台至起雲台

——題經紀遊共十四首。

憔悴青山看我來	扶筇歲盡強登台
參天古柏遭兵火	破寺名碑半草萊
山徑雪消行滑滑	道人糧盡乞哀哀
干戈饑饉連三輔	老病躊躇日幾回



起雲台至落雲台

人似春風去又來 香憐柏子落仍閒  
流連東寺還西寺 隱約前台望後台  
遠戍歸時遺塚在 野烟生處幾家回

——滇軍陣亡將士塋葬處。——

三秦無地無兵火 含淚名山認劫灰

遊祀祠廟

廢邑猶存漆水邊 城名祀祠義難箋  
神祠漢吏圖仍在 兵鑄秦皇史不傳  
里社迎春驚爆竹 居民挑菜度凶年  
嗟余難了公家事 蹀躞人間覓墓田

藥王山除夕雜感二首

伏虎降龍事渺茫 洞門香火歲除忙  
瘡痍徧地神知否 兒女癡心禱藥王

歲盡天寒客思孤 茫茫何處是途歸  
家人倘備寬心麵 應念愁城困老夫

——三原風俗，以除夕麩爲寬心麩。——

民國十年

元日拂曉出遊顯雲台至將軍山山舊  
有王翦廟今廢矣

昨宵不寐到今年	破曉尋春一泫然
戰壘回風吹野燒	麥疇殘雪露新阡
將軍山上圍秦鹿	殺初祠中禮漢賢
載酒江湖當日事	戎衣困頓誤神仙

山 居

北去將何去	南還不忍還
迎春王翦廟	臥病藥王山
柏老添香葉	碑殘印淚斑
南軍叢葬處	新月似弓彎

尋碑

曳杖尋碑去	城南日往還
水沉千福寺	雲掩五台山
洗滌摩崖上	徘徊造像間
愁來且乘興	得失兩開顏

遊曬藥場謁滇軍葬陣亡將士處

山南雪半消	樵徑寒冰涸
言尋曬藥場	來弔南軍墓
春草萋以綠	新墳起無數
古柏戰風霜	一一香葉護
自昔國難生	賢哲先奔赴
白骨委沙場	豈曰志竹素
戰爭復戰爭	神泉莽如故

西南歌蒿里	西北歌蓬露
大損不知損	相親不相顧
滇人烏歸巢	秦人株守兔
問彼泉下人	殉國終何慕
萬里葬此間	誰為招魂賦
黃鳥鳴樹枝	西南失歸路

與關子洲李西園同遊耀縣城東

——關君有天留餘地開新墓之句。——

蕭條殺羽城東路	扶杖尋碑任所之
破寺僅存兵火後	遺民猶在亂離時
山川滿目傷懷抱	冰雪連郊照鬢絲
文化關西空有願	天留餘地愧君詩

再上曬藥場謁滇軍葬陣亡將士處

右任詩存

春滿曬樂場 登高哀國殤  
南軍何事去 東道詎能忘  
轉戰憐衣食 揮戈徧雍梁  
傳聞餘部曲 再起出荆襄

三調曬樂場滇軍將士公葬處

茫茫俠骨伴名山 萬里西征竟不還  
欲奠英魂難靖亂 忝爲地主亦慚顏  
魄歸金馬碧雞上 淚溼秦關蜀棧間  
曬樂場前春草綠 春風吹起土花斑

由耀縣歸三原途中書所見

凶荒經兩載 歲轉劫應消  
里婦烹槐子 春風醒麥苗  
零星聞社鼓 釘鉅採村謠

右任詩存

獨怪離離草 經冬尙未凋

由耀縣入三原境有感

何事出山與願違 無能此去欲依誰  
兵當南北交爭日 歲到青黃不接時  
置腹難償諸將願 空拳安慰萬人饑  
馬前清峪盈盈水 且自臨流照鬢絲

不寐

竟夕不成寐 勞人知夜長  
眼前燭垂淚 鏡裏鬢生霜  
百草憂春雨 遺黎傍戰場  
三年徒負咎 懺悔亦無方

新莊雜詩

右任詩存

——三原東關城北隅。——

撥亂無功肯自寬 壯懷消盡事知難  
當年孤矢誰家院 垂老重經淚不乾

——余生新莊，不知在某氏院中。——

計入今秋幾往還 棉鈴開後到農間  
城隅最是新莊好 圓覺菴前看遠山

重到何園意惘然 牆隅新柳已參天  
何翁自敘何園史 手把犁鋤廿五年

——園主何二，年七十餘矣。——

題曹印侯小照

躍馬橫戈西復東 會持白刃定關中  
西湖遁去嘔心死 落日河山起大風

右任詩存

題靳伯倫小照

——河南人，十年春戰死固官之北。——

打破四關惟有子 曾經百戰更無人

——伯倫平日，以打破四關銘座右——

君看玉立亭亭者 死在沙場靳伯倫

題耿端人小照

覆局何常今異古 義旗雖倒果成因  
英雄關內知多少 血戰長安有幾人

題井勿幕小照

羞爲榆塞剌心祭 忍讀餘杭誌墓文  
何以報君雙眼淚 哭聲直使帝天聞

風 雨

風雨連宵又起雲 高樓西北望逾紛  
秦人迷惘當中歲 鄭鹿爭來已二分  
烈士暮年誰譽我 美人天末苦思君  
新秋一夢真無似 蟬曳殘聲不忍聞

中秋夜登城樓

夜靜雲開月未斜 城樓倚杖聽殘笳  
關河歷亂無歸路 兒女團圓有幾家  
濁酒因風酬故鬼 戰場如雪放菡花  
可憐垂老逢佳節 淚灑戎衣惜鬢華

民治學校園雜事詩前十首

祇餘民治園中路 老病扶筇日幾臨

客去偷閒眠樹下 愁來不語立花陰  
移栽龍爪無靈氣 敗退雞冠有舊心  
爲念歸耕歸不得 忘身桴鼓託哀吟

老作園丁喜不支 小畦荒穢復尤誰  
三稜草蝕除蟲菊 二丑花纏向日葵

——蝕亦作蝕。——

別有傷心看落照 自鋤餘地種相思  
山川如故人情改 手捋蒼髯唱黍離

矮屋真如小洞天 避人何事住花前  
年荒野雀侵家雀 風急紅蓮壓白蓮  
滿目山河餘戰壘 萬家歌哭又桑田  
城隅坐對斜陽晚 北雁南飛亦自憐

右 任 詩 存

是處鐘聲雜角聲 戎衣漬淚念偷生

——學校計時，多借用廟鐘。——

好花無計防人折 寸地翻勞帶月耕  
破瓦君休驚玉碎 登樓我自望河清  
石榴園裏添新土 又作花田累老兵

學童工作倍天真 我亦徘徊欲置身  
曾與共耕還共穫 居然相愛更相親  
休平壁壘留兒戲 時弄乒乓任客嗔  
爲報晚菘蟲已蛀 平民菜莫濟平民

莽莽關山限四圍 黎侯失國恨無依  
秋高塞雁聯羣渡 巢覆霜烏結隊飛  
藜杖臨危惟我相 彩毫和淚爲誰揮  
薔花如血棉如雪 早不躬耕計已非

右 任 詩 存

水平枉接木工場 手插波斯菊幾行  
萬幕晴沙排蟻陣 連宵急雨絕蜂糧  
胡麻腋下蓬蒿長 毛豆籬邊紫菀香  
差幸美棉好成績 可能衣被到窮鄉

天際浮雲自在飛 人間不合有重圍  
龍蛇互用藤篋長 燕雀交歡黍已肥  
插柳成林情尚繫 穿池引水計先非  
鄉人爲道茴香好 手種靈苗帶雨歸

歲歲名花次第開 天香國色競新裁  
如何聯瓣成離瓣 詎奈蜂媒又蝶媒  
遷地爲良無隙地 劫灰將盡更飛灰  
白衣堂後王熊塚 黎罷恭酬酒一杯

右任詩存

人生求足何時足 天道無常似有常  
老屋將傾基尚固 好花雖謝種猶香  
早知階下蕉難實 且看簾前菊見霜  
爲問他年誰灌溉 自由嘉卉徧西方

民治學校園雜事詩後十首

不死蠶冬心宛轉 將離芍藥淚汎瀾  
療饑誤種無花果 當路誰栽落葉蘭  
蘿蔓藤條相比附 梅魂竹影兩盤桓  
松苗也作龍鱗勢 與爾他年共歲寒  
搜徧人寰草木箋 更求佳種欲流傳  
枝條直上公孫樹 日月交催子午蓮  
芳芷不生蕭艾下 款冬偏放雪霜前  
如何易致均難致 况復青蒼老少年

右任詩存

茫茫何地欲爲家 計到勞耕日又斜  
一笠閒雲僧帽菊 三年零雨馬蹄花  
魂招南國歌哀郢 雨濕東陵學種瓜  
一臥西園驚歲晚 刺槐高處噪寒鴉

一夕相驚已白頭 天荒地變見殘秋  
心如落葉飄難定 身似棲鴉繞幾周  
豈料奇花爲敗醬 應憐異草亦含羞  
嗟余蓬轉無寧日 蕙圃芝田何處求

曾借耕牛引水車 兒童活潑似農家  
天留餘地作勞者 人到窮途感歲華  
秋雨聞鶻啼曠野 朔風吹雁落平沙  
園中美卉田中莠 多事辛勤種殺花



右 任 詩 存

亭台鸞鳳競盆棧 東縛相憐盡解開  
但願平均還本性 應知拳曲是凡才  
多層刺柏參天立 不實櫻花渡海來  
悟道羣生資互助 君看植物有蟲媒

十月之交雨一犁 蒼騰盤馬灞陵西  
東征大隊驅河洛 北伐偏師起晉齊  
盡殫渠魁消閭閻 廣傳文化到羣黎  
荒雞四唱天難曉 又夢驚風枳棘棲

鐵箭花凋葉復長 世間真有返魂香  
難移大戟當關險 故採仙茅薦國禳  
人亦勝天無利鈍 老而不死閱興亡  
長楊夜半風聲惡 猶是前年在戰場

右 任 詩 存

除草獨留狼尾草 無神私祭自由神  
東門上蔡思牽犬 西狩尼山歎獲麟  
此日婆娑因卽果 當時剪綵假難真  
秋風忽灑興亡淚 滿目新人是舊人

傷慨當年此督師 回頭腹有斷腸詞  
三秦子弟多冤鬼 百戰河山倒義旗  
動地枝歌真盡荻 燒天兵火亦燃萁  
難忘民治園中路 捲土重來未可知

移居唐園詩以紀之

逝跡鄉村不忍回 唐園有路足週迴  
長條絡石藤纏葛 古木交柯柏抱槐  
惡竹萬竿難盡斬 紅梅一樹獨先開  
老兵休道戎衣薄 大地陽春可喚來

右 任 詩 存

南園急雨北園晴	載酒西園月又明
天上風雲原一瞬	人間成毀不須驚
高墳玉盃兒孫盜	曲沼金魚將土烹
淒絕范公窮塞主	力窮西北淚縱橫

獵

東門牽犬去	罷獵復悲歌
縱有途窮者	其如日暮何
狐鳴羣不散	兔狡窟偏多
莽蕩圍場在	爭教脫網羅

右 任 詩 存

民國十一年

一月十八日淳化道中

冰雪犯征裝	征人出朔方
艱難全大節	跋涉到窮鄉
百劫存肝膽	空山老鳳凰
通天台在否	君莫問穹蒼

淳化道雪中追憶唐園之獵寄李子逸  
茹卓亭田溫如劉紹文張景秋諸同學

留滯半耕園	植物資探討
戰爭四五年	時艱余亦老
世情多翻覆	焉能常自保
掀髯欲出獵	指使無朋好
二三同學翁	來言歡會少

右任詩存

南郭招舊部	北村喚老小
聞聲牽獵犬	共集東門道
莽蕩平原中	嚴霜殺百草
一一田與隴	獵者都驚遠
眼前一兔躍	氣與長天杳
得機爭縱犬	迅急如飛鳥
圍場周十里	往來三四繞
兔疲犬亦疲	咫尺難嘶咬
杖頭恨無鷹	放出擊以爪
村狗不善走	忙亦吠而蹣
兔狡敵偏多	敵多兔愈狡
急中覓老窟	轉身捷復矯
頃刻窮穴中	生擒負其囊
居然唱凱歸	下酒消煩惱
旁皇終日間	僅僅圖一飽

右任詩存

爾愁覓兔消	兔愁被爾擾
豺狼橫四野	狐狸毒而考
舍強翻凌弱	無乃非素抱
魯連恥帝秦	程嬰能存趙
人言荒於獵	使我憂心慄
天曉登前程	作誓告蒼昊
大雪瀾乾坤	上下爲之皜

方里紀遊詩四首

東溝昨下去	游到西溝遶
後日同明日	南山與北山
風雲連野燒	冰雪映衰顏
父老休爭看	元戎亦等閒
甘泉休作賦	非是舊雲陽

右任詩存

禁地平民種 坡田佃主荒  
金人還涕淚 玉樹不凋傷  
弔古兼懷友 年年哭戰場

夕照滿原野 遊人胡不歸  
歸途見春水 老淚濕戎衣  
夷險招誰共 東西任鳥飛  
君看樵子樂 歌去掩荆扉

六股藤爲杖 出遊無日閒  
路遙添白髮 雪盡見青山  
社鼓迎新歲 春風度故關  
嗟余久留滯 歌罷淚潸潸

方里紀遊篇之一

右任詩存

— 遊西溝 —

雪積山似近 雪消山似遠  
貪看南山雪 却從北山轉  
扶杖任所之 探奇興不淺  
大壑忽前橫 沿路冰雪滿  
百折徑益仄 鳴泉樹復斷  
泉下有平川 川平又沃衍  
居民數十口 雜樹數千本  
水田數十畝 蔬米兩皆產  
不治風俗淳 不爭生活簡  
生民自穴居 夏涼冬日暖  
徘徊未能去 戎衣自作繭  
長途困難息 老馬馳峻坂  
吾苟平不平 躬耕或未晚  
君看東嶺上 白雲自舒卷

方里紀遊篇之二

—弔于鶴九—

霜落薺菜香 冬盡麥苗醒  
遠山明殘雪 似雲橫半嶺  
蹀躞方城外 春風撲人冷  
東南有新墳 返射寒日影  
老鶴折羽翼 埋骨氣猶迥  
血淚灑空山 哀君同哀郢  
生前少忠告 歿後常耿耿  
憶昔弔民立 七哀猶悲哽  
問道入關門 三哭張董井  
—張義安，董振五，井勿幕。—  
鶴兮倘歸來 憐余益不幸  
西北一萬里 盛蹙靡所聘

流離主家君 鳳弟贈以駁

—君弟鳳千—

云乃君所遺 俾禦風雪警  
夜半述家難 時聞慚憤井  
並謂母七十 眼枯當逆境  
事久見人心 不必在俄頃  
我欲招君魂 努力回落景

柳家灣訪碑得阿史那元方造像並拾  
得舊瓦上有隸書「宮」二字

東風吹大野 駐馬柳家灣  
造像搜年代 摩崖剔薛斑  
雲封神兔嶺 雪壓石門關  
拾得離宮瓦 曾攜幾片還

柏樹山紀遊

柏樹山頭柏益蒼	山前池館已荒涼
百年花木經兵燹	十載家山作戰場
大戶陵夷中戶起	上田租佃下田荒
復齋行草密齋篆	點綴亭台共夕陽

——復齋，吳齋，留題最多。——

內子高仲林送楞女人京成親媵之以詩

春風蘇百草	送爾出關門
遇合從兒願	追隨念母恩
家庭新創造	文學舊思存
應念空山老	詩箋印血痕

世人如我問 勉強說平安

百戰身將老	三年枕未乾
秦兵仍奮激	民黨更艱難
素蓄澄清願	時危肯自寬
海上攻書日	關中省父時
歲饑兵不飽	女大嫁因遲
多事添媒灼	無端累義師
人心未可測	究竟有天知

汝婿亦奇士	青年多美譽
憂同屈正則	事類中包肯
至理無貧賤	浮雲有卷舒
進修齊努力	嘉耦復誰如

淳化西行道中

老矣策戰馬	通天台下行
雲埋鈎弋墓	風撼林連城
原陡河流疾	山荒野燒明
五年徒負負	從此又西征

武功城外

扶杖行吟任所之	武功原上晚晴時
郊媒誰禱姜嫄廟	春雨人耕后稷祠
萬里風雲掩西北	十年兵火接函岐
綠楊臨水川如畫	景物流連老益悲
金鼓河山訴不平	義旗牽引復西征
郊連戰壘周原壯	浪打城隅漆水明
朔漠冰霜蘇子節	春風桃李武侯營
登壇慷慨今猶昔	忍淚連年說用兵

岐山城外

破屋頽垣盡戰場	參差雉堞認金瘡
爭傳漢將雜耕種	不見周原棲鳳凰
文字失真摹石鼓	生民多難撫甘棠
來歸如市將安慰	走馬西郊亦自傷

過五丈原

東風吹雨過岐陽	五丈原前作戰場
亂久遺黎租有備	征繁中歲已成荒
力窮西北思秦晉	淚灑英雄念武鄉
惆悵車麟不作	長途惟見月蒼蒼

鳳翔城外晚望

東湖春水綠云云	飲鳳池前看夕曛
---------	---------

右任詩存

困頓家山餘老淚 支持西北仗孤軍  
誰從君子歌猶苦 不復東征異所聞  
好雨天偏灑岐鳳 豈知無地樂耕耘

靈台道中

靈台原上望 何處是秦關  
東去無歸路 西來有萬山  
詩成補游記 兵敗恥生還  
學道誠宜早 行行鬢已斑

崇信道中

蹀躞深山裏 探奇記不詳  
野人都望歲 植物自分疆  
處處生甘草 家家種大黃  
關山信難越 夢裏夢還鄉

右任詩存

——關山在崇信縣——

竹林寺

投宿竹林寺 摩崖時隱見  
昔時梵王宮 今作回回店  
回兒六七齡 自云天賜劍  
我杖六股藤 兒曰此木善  
客欲擇佳者 山前山後徧  
轉瞬緣樹枝 攀崖技獨擅  
隱約十丈間 樹動兒不見  
兒登我戰慄 杖得兒歡忭  
問兒懼怯否 曰如平地便  
深林有大蟲 遇之使人顛

天水道中



隴頭嗚咽水 時作斷腸聲  
可是長征者 而忘故國情  
餘年期有補 百戰悔無名  
悟到安人策 無勞再說兵

清水早發

破曉放耕牛 一一上山去  
乳牛引小牛 去向草深處

清水道中

馬嵬兵已退 隴坂路初經  
烏喚人心字 田開龜版形  
遲回秦嶺峻 隱約蜀山青  
六郡良家子 胡爲氣不靈

清水縣麻鞋歌

清水縣 縣城下  
麻油油 被四野  
老農自矜產麻好  
並謂麻鞋製作巧  
聞客明日西南行  
願助輕足越蜀道  
吾聞昔時杜陵叟  
曾著麻鞋兵間走  
秦州風雨鄜州月  
困頓關山頻搔首  
世方喪亂我釋兵  
踰隴猶如喪家狗  
騎墮懼蹉跌

右 任 詩 存

騎馬防驕縱  
扶杖偶步行  
兩足如起重  
久騎腰背酸  
久走足心痛  
人生到此方自悟  
除却自力全無用  
老翁老翁吾語汝  
世有利器在人控  
昔余歸秦川  
問道經鄭延  
潛行破瓦溝  
百里無人烟  
建節守涇渭  
戰爭四五年

右 任 詩 存

父老苦差徭  
大事寸不前  
河北兵強世無兩  
將軍跋扈生他想  
運去難爲窮塞主  
時來爭作降王長  
轉徙涇原復岐鳳  
馬嵬一戰難敵衆

—— 魏城以五軍最後擊敵 ——

西北風雲掃地空  
新鬼吞聲舊鬼慟  
一語未畢淚紛下  
鷓鴣催上長征馬  
熊熊在後豺狼前  
革命之難如是者

秦嶺

乘騎驅黃犢	村農意倍閒
征人太自苦	萬里幾時還
月下過秦嶺	雲中望劍關
今朝一豁目	微雨洗前山

隴雜詩五首

隴山終日行	勉強能騎馬
草木不知名	揚鞭問樵者
昔時赭山陰	今日赭山陽
上下百餘里	開山種大黃
空谷無耕鑿	名花自開落

惟有食山人	年年採白芍
幽壑居邱壑	孤芳欣有託
茅屋二三間	門前種芍藥
路出華清縣	大黃葉如扇
日炙或雨淋	皆能覆君面

張家川

振臂一呼此啓疆	河山耕牧勢猶強
早知騎射雄西北	今見威儀視帝王
萬戶蒸騰風又雨	一川填咽海還桑
天荒地變真閒事	金碧參差宜化岡

隴頭吟

右 任 詩 存

隴南流水向南流 處處花開倒掛牛  
消却行人無限恨 衆香叢裏到秦州

隴南流水向東流 照見征人渡隴頭  
馬上高歌莫回顧 老來兵敗過秦州

徽縣早發聞耕者歎息聲

早起行鐵山 月明似天明  
田夫立隴畔 朦朧不能耕  
但聞語太息 今日天又晴

略 陽

山山看不斷 曲折入嘉陵  
兵挫心猶壯 途長氣益增  
荒城添戰壘 孤艇載詩僧

右 任 詩 存

檀樹青青實 崖前掛幾層

陽平關

陽平關下路 山少石灘多  
敗將譚兵淚 神巫禱雨伙  
風雲接秦蜀 皮骨老關河  
暮色蒼然下 誰揮挽日戈

略陽滯雨詠權德輿

丞相風流水石間 略陽遺蹟遯難攀  
詩開元白當時體 雨濕蜀秦兩岸山  
江渚瑤琴思往往 釣台明月自閒閒  
孤舟落月長征客 一夜懷人鬢欲斑

白水江

右 任 詩 存

白水江頭未了僧 孤舟一夜入嘉陵  
雲封蜀道無今古 鬼哭周原有廢興  
野渡招搖村市酒 荒城出沒戍樓鐙  
陽平關下多雷雨 淨洗西南恐未能

嘉陵江上看雲歌贈子元省三陸一

雲如蒸氣巖前起  
山似饅頭石似米  
扣舷而歌歌未終  
雨打孤篷衣如洗  
風風雨雨斷客腸  
從亡諸子俱淒涼  
關山百戰踰秦隴  
舟車經月道雍梁  
時虞繒濑如飛鳥

右 任 詩 存

辜負江山看劍鏗  
噫吁嘻  
奇雲忽聚忽飛散  
峭壁時隱時出現  
客心如海復如潮  
鷗聲似續還似斷  
無平不險往不復  
有酒一尊詩一卷  
醉後憤憤呼蒼天  
頓足踏破嘉陵船  
雲引愁心雨引淚  
嘉陵江上話昔年  
龍門浪急電雷吼  
華嶽雲埋鷹隼寒  
問道忘身生命賤

孤軍苦戰歲時遷  
災深餓殍橫三輔  
痛劇國殤泣九泉  
子弟前仆爭後繼  
父老壺漿半含涕  
將軍歃血舉義旗  
中道反戈先變計  
誰信李陵報故人  
羞爲干禁汚家世  
飯已破矣難苟全  
秦無人焉空望祭  
不哭窮途哭戰場  
一龍一蛇一螳螂  
雲橫秦嶺關門鎖  
夢落周原戰壘荒

### 渝城張家園夕照樓

——由醴南下，遇川中一、二軍戰事起。——

三面山圍夕照樓	樓前一角見江流
大江東去添新浪	敗將西來作壯遊
四野干戈爭避亂	小園花木亦添愁
蜀民似我貧兼病	戰伐何能解百憂

### 題呂天民偶得詩集

范宋徐陳悲復悲	天饑人虐兩無遺
春江夜雨三茅閣	猶憶當年草檄時

——民立報社書同享，范鴻仙，陳英士，宋漁父皆被暗殺，徐血兒以嘔血死，社址在三茅閣橋。——

淒涼同社惟君在 老有詩篇詔後生

右 任 詩 存

我愛遊仙讀莊子 人間無地著新聲  
 緬甸難揮挽日戈 滇邊劃界事如何  
 當年佳句爭傳誦 上國疆分紅蚌河  
 黃花岡上草萋萋 開國人豪姓半迷  
 我讀君詩如讀史 殘山賸水有餘淒

蔣太夫人行述書後

——壽介石君之母——

日落慈雲亭 望母知何處  
 哀哀遠征人 猶思斷機杼  
 絮絮堂上聲 男兒志不朽  
 一語慰將軍 報國猶報母

右 任 詩 存

楚儉孟芙新婚招飲樸安精衛亞子楚  
 儉均有作余思鈍而晚成因寫寄同座  
 仲輝望道亨麗漳平並約同遊宋園

蔥蒨華堂共舉杯 神仙眷屬喜相陪  
 曾期精衛真填海 私幸于思竟復來  
 舊學傳家皆有女 新詞覺世並多才  
 騷壇賸得屯田在 金鼓北征乞主裁

天南困頓老元戎 民黨何時日再中  
 同社幾人操不改 三年百戰氣猶雄  
 文章報國餘肝膽 歲月催人雜雨風  
 賤子詩成更招飲 宋園花木已蔥蒨

讀徐太夫人行狀

右 任 詩 存

——徐自華女士之母——

姊妹爲文字字真 一行徐母已傳神  
西風吹淚西湖上 慷慨當年葬黨人

題缶老爲畹華畫梅

輝映人天玉照堂 嫩寒春曉試新妝  
皤皤國老多情甚 嚼墨猶矜肺腑香

——先生題詞有頗具嚼墨量之句。——

爲秦振夫題其祖水竹畫梅

白髮鋤明月 歸來獨種梅  
春風蘇百草 先見一枝開

爲孫少元題顏書爭坐位帖後

彭衙廣武湮仍顯 正始石經整復殘

右 任 詩 存

一物偶然成聚散 達人何事雜悲歡  
身如啓泰懷桑海 書到平原見肺肝  
爲約滇南老名士 神州再造共漁竿



民國十二年

舟出吳淞

摩霄鷹隼棲無地 霞色樓台影蔽天  
君羨吳淞田二畝 如何遲却又十年

三月十四日與登雲自立諸君謁黃花  
岡遇林子超先生

白雲山下日將斜 掃墓逢君感有加  
爲道偷閒春雨後 黃花岡上種黃花

詠木棉

海市喧闐日未中 萬花光射滿城紅  
參天秀出英雄樹 高揖羣倫慣受風

——粵人以木棉爲英雄樹——

過台灣海峽遠望

激浪如聞訴不平	何人切齒復譚兵
雲埋台島遺民淚	雨濕神州故國情
地運百年隨世轉	帆船一葉與天爭
當年壯志今安在	白髮新添四五莖

與曾孟鳴謁黃花岡七十二烈士之墓

黃花岡下路	一步一沾巾
恭展先賢壙	難爲後死身
當年同作誓	今日羨成仁
探得雞冠子	多多寄故人

——採雞冠花子寄民治學校。——

海上過鳳岐兵敗紀念日

金鼓東征可有期	老來抱恨復何之
鷓鴣夜月三良墓	禾黍秋風后稷祠
海上有愁消日月	中原無地見旌旗
關西子弟多豪俊	莫忘當年是義師

與卓亭景秋建侯遊西湖追憶宋漁父  
湯贛仙二先生昔年湖上之約

我與江山共此愁	湖亭曾紀雪中遊
當時載酒人安在	此日停車感不休
百戰無能酬死友	十年多淚灑杭州
孤山梅放香樟翠	翻羨賢豪占一邱

靜江兄長年四十六得丈夫子名曰乃  
鶴爲詩賀之

老矣革命黨 尤能書畫傳

右 任 詩 存

香修同人靜 龍鳳例逃禪  
有女皆知學 生兒必象賢  
名家增韻事 寰海徧飛箋

右 任 詩 存

民國十三年

初訪得廣武將軍碑者爲雷君召卿余  
作歌贈李君春堂因其最先持以贈余  
也十一年春春堂殉國十三年春召卿  
由澄縣來函海上詳述始末因爲詩贈  
之

好古遺聞自足珍 彭衙名物重苻秦  
回思舊事增惆悵 錯詠披荆訪古人

李春堂死究難論 廣武碑移感更多  
——聞移于澄日村——

夜半摩挲忽下淚 關門風雨近如何

讀史三首

右 任 詩 存

風虎雲龍亦偶然 欺人青史話連篇

中原代有英雄出 各苦生民數十年

希文尚義除邊俸 炎武逃名置上田

一片是非誰管得 古來公論恕名賢

無聊豫讓酬知己 多事嚴光認故人

面上征塵衣上血 千秋贏得一沾巾

讀唐詩三首

李主無生杜自然 詩人政論妙難宣

朱門酒肉神山樂 寄語時流莫妄箋

兄仇李賀嘔心稿 客贈劉叉諛墓金

天幸韓公多畏友 孟郊半俸亦高吟

右 任 詩 存

神仙韓愈嘲方朔 功業薛能謗武侯

橫槊賦詩天策府 太原公子亦風流

讀經一首

爲齊人諱功無補 憫衛國亡唁不靈

公穀偶同毛鄭異 各衷一是說遺經

香港逢劉小雲同遊九龍歸小雲以詩見贈因次原韻

晝日偕遊不計程 宋亡台下聽潮聲

憐余奔走身將老 話舊淒涼草已生

——陳伯潤世叔，茹璣四學兄。——

避世安能知避亂 談詩未罷轉談兵

歸來更荷瓊瑤贈 棄甲于思有淚橫

民國十四年

京奉道中讀唐風集

襟上暗沾前日淚      客中閒唱舊時歌  
雲埋遼海春風冷      雪擁榆關戰馬多  
莽莽萬山愁不語      栖栖一代老難過  
夜深重理唐風集      兵滿民間可奈何

與陸一遊京南花神廟

十里花村任所之      花神招我遠尋詩  
春風偏綠饅頭柳      儉復詞人莫療臍

黃河北岸見漁翁立洪流中

勞者無名逸有功      便宜畢竟屬英雄  
世人都道河魚美      不見漁翁駭浪中

右任詩存

民國十五年

黃海雜詩三首

——時由津至滬，由滬至海參崴。——

出塞翻揮入塞戈 南征轉唱北征歌  
人生窻路真難計 水陸週迴兩萬多

客子爭看黃海黃 黃流浩渺極天長  
漁舟業業來何處 領海官家早已荒

滄海橫流賦不濟 爲誰風雨爲誰晴  
空聞閒事休勞管 見個民船轉失聲

舟入黃海作歌

黃流打枕終日吼

起上柁樓看星斗  
 一髮中原亂如何  
 再造可能得八九  
 神京陷後余亦遷  
 奔馳不用賣文錢  
 革命軍中一戰士  
 蒼髯如戟似少年  
 嗚呼  
 蒼髯如戟一戰士  
 何日完成革命史  
 大呼萬歲定中華  
 全世界被壓迫之人民同日起

天明聞船上雞鳴

籠中渡海難舒翼 廚下留烹知待時

尙自殷勤報天曉 一聲驚起幾男兒

望日本海岸

海產東人久自矜 相隨霸業更飛鷹  
 爭看照海若干里 遠近漁船十萬燈

舟出東朝鮮灣

痛定應思痛 國魂招不還  
 雲生絕影島 雨濕白頭山  
 并力爭除暴 借亡詎是頑  
 于思亦戰友 無奈鬢毛斑

西伯利亞雜詩寄王陸一

川原悠遠淨無塵 一種韶光及似春  
 萬里投荒阿穆爾 老而不死作詩人

右任詩存

繡瀾諸子照眼明	工餘女伴誦偕行
夕陽忽架蒼松頂	歸路猶聞鶯唱聲
馬肥久困無征戰	樹老方知閱歲華
家住桃源一萬里	不知世上有桃花
萬綠叢中佔一坪	欹斜板屋牧豕耕
小家園內新天地	芳草如茵不計程
水邊烏城聞汽笛	山園赤塔見桑麻
麪包價貴酪漿賤	牛飲歸來買野花
共舟而濟共輿馳	患難相偕爾我知
今日車過尼布楚	考量舊史憶君時

右任詩存

西伯利亞雜詩又二首

十日飛車道路長	鮮卑遺壤待推詳
雲生大漠連宵冷	花放平原萬里香
牧馬迎風呼戰馬	羔羊覓跡喚羴羊
人情物理無中外	惆悵他鄉憶故鄉

——西伯利亞，在俄文爲北極之意，並非民族之名，  
吾國學者，謂鮮卑即西伯之轉音，爲非。——

莽蕩風雲眼底開	大荒之野荷戈來
黨人流放知無數	條約荒唐信可哀
民族丁今矜解放	山林自古未夷摧
窮鄉轉瞬放天國	革命何人喚不回

過貝加爾湖



東來雨濕興安嶺 南去雲迷杭愛山  
多事來尋蘇武蹟 貝加湖上灣復灣

西伯利亞道中書所見

青青柏 密如麥  
蒼蒼松 臥如龍  
密密樺 亂如麻

樹暗 雲生

天寒無鳥聲

昔多放流人

今爲自由民

綠蔭如韁草如茵

征車十日無纖塵

行行一萬八千六百里

無日不在叢林裏

西伯利亞之游樂如此  
眼中之淚弄老矣

入歐洲後感懷

鄂畢河前飯 烏拉山下眠  
無戈肱作枕 有產舌爲團  
金鼓勞民極 冰山債主饑  
神州竟何似 俄望一悽然

車過烏拉山

臥看烏拉山 連山起烟霧  
遠過山下人 騎牛渡旁渡

昔時戰場今如故 朝陽紅射烏拉樹  
尼古拉期血未乾 牧兒長歌向何處

莫斯科雜詩

拿破侖翁敗不還 何人倚劍河寧山

——拿破侖曾至此山，攻莫斯科。——

山中歌舞山前落 今作人民消夏灣

——山下即莫斯科河。——

金頂輝煌映日明 無朝無暮有鐘聲

式微宗教威猶在 鴉片安能浪得名

——教堂門口多貼馬克思宗教之毒甚于鴉片之標語。——

歸途過沃木次克

鄂畢河前水急流 時當盛暑氣如秋

平原萬里耕兼牧 一路看化人亞洲



攝 於 俄 京

過奧木次克

黑麥青青燕麥黃 零星硬麥已登場  
民間尚有三年制 蔓草不除待放荒

再過貝加爾湖

貝加爾湖青澈底 波浪如鳥飛不起  
照見征人半白頭 白海之名良有以  
河流穿兮似箭 山脈束兮如壘

——葉尼塞河穿湖而過。——

照映俄蒙兩大民族間 解放之後平分此一水

——南爲斯拉夫，北爲布蒙。——

蘇聯持節是耶非 于今北雁又南飛

——庫爾蘇武牧羊此湖邊。——

計將隨爾渡沙漠 先入關門報我歸

貝加爾湖邊懷古

曾經北海幾沉思 此地匈奴據幾時

——漢時蘇武，被匈奴放至此，可知此地非蒙古人所有。——

喘雪吞氈蘇武淚 行人往路李陵詩

牛羊被野誰來牧 碑碣連崗我去遲

——湖邊奧利漢島昔年有中國碑甚多，布利亞

特人民嘗往祀之，修鐵路時，俄人全毀去。——

胤子兩家存有幾 風波失所古今悲

——中國文學家，在水國稱風波，大陸稱風塵，塞外稱風

沙，李陵送蘇武詩曰：風波一失所，各在天一涯，想

係指貝加爾湖而言，則疑李詩為後人偽作者誤矣。——

西伯利亞雜詩

遺鏃可知常擄獲 斷碑難得再摩挲

——西伯利亞常發現漢代箭鏃——，——貝加爾湖北奧利漢島上，  
多漢文刻石，修鐵路時燬去，伊爾庫次克北翁格山，舊有漢文  
刻石，義和團起，居民恐其以此為證來襲，遂毀之。——

和親更有物為證 公主宮娥寶鏡多

——俄國博物館中中國古鏡，皆西伯利亞得者，近在

北冰洋邊索米亞得地方，考古家亦獲中國古鏡。——

蓋代英雄去不還 高碑猶在自人間

大王城下會經過 萬里投荒鬢已斑

——尼布楚有中國式城，居民稱皇帝城，亦曰大

王城，有蒙文成吉思汗紀功碑，余見其拓本。

過買賣城

——北屬俄，為恰克圖，南即買賣城

，中國舊留中立地約二百哩。——

右 任 詩 存

阿山雲起傍南行 隨客經過買賣城  
 野曠馬牛齊解放 秋高星斗倍分明  
 昔時白草爭南牧 此日紅旗鼓北盟  
 民族一家分兩國 如何相愛更相成

——南為外蒙，北為布蒙。——

恰克圖至庫倫

山靜沙皆白 秋高草不黃  
 女兒騎惡馬 大野牧牛羊

毛子造板屋 蠻子築土牆

——蒙人稱俄人曰毛子，稱華人曰蠻子。——

叩叩愛蓋賴 隨地宿鴛鴦

——叩叩蒙女之稱，蓋賴蒙古包也。——

右 任 詩 存

至諾顏山下蘇珠克圖地方訪二百十二古墓

諾顏山下萬松秋 松下何王置寢丘  
 萬古長眠人忽起 列寧城裏一勾留

——墓中屍骨送列寧格勒。——

道是匈奴可不疑 呼韓寇塞為名姬  
 王嬙墓內知多少 繡襦傷心殉葬時

——墓中風髮女子甚多，有中國繡襦。——

硃文繆篆秀而工 玉印還疑出漢宮  
 蘇武班超青史滿 無名女子苦和戎

——墓中得玉印。——

右任詩存

金沙自是累名王 鬱鬱佳城竟被創  
臨十二墳秋草白 白頭訪古到窮荒

——墳共二百十二，發掘者僅十有二，初發現者，爲金銀工人。——

竟無片石記雄名 勝蹟湮于代幾更  
宮女如花滿氍帳 祇今同客列寧城

一墳數十美人屍 望斷天兵破虜時  
轉惜英雄多鼠竊 曹瞞只解贖文姬

埋恨何年史不詳 殉身遺痛等沙場  
中原兵敗詞人老 持節北來弔國殤

訪古墓夜宿招莫多中宵不寐出門望  
月有懷

右任詩存

山益深時月益明 空山明月倍多情  
月明更有松爲侶 夜靜風來漸作聲

馬肥弓勁乘秋下 邊患千年苦不支  
今日高吟漠南北 諾顏山下月明時

附攷查外蒙古土謝圖汗部諾顏山  
下蘇珠克圖地方二百十二古墓記

十四年春，余在北京，有自庫倫歸者，述俄人某於庫倫附近發現古墓，當時欲約北京大學考古學系友人入蒙實地調查，卒因事不果。

今歲三月，國民軍退出北京，余欲援陝，而隴海京綏兩路皆梗塞，乃由滬乘輪赴海參崴，轉乘西伯利亞車至莫斯科，住十餘日，復由莫於八月二十三日至庫倫。

蒙古政府改庫倫爲烏蘭巴圖魯和特。烏蘭者紅色也。巴圖魯可作健將解，亦可作英雄解。和特卽城之義。抵烏蘭城後，晤李協和同志證實國民軍於十八日由南口退却，并放棄張垣。同時傳聞張作霖派白黨擾亂海拉爾。故蒙古政府開隊防邊，又託詞道有土匪逆發護照，余遂滯留烏蘭城而訪古墓之念益切。

初以古墓詢之當事諸人，多不知其地之所在，繼至圖書館得俄人葛塞洛瓦北蒙古發現古墓記。爲之狂喜。詢所得之物何在，館中人謂發現後卽運列寧格勒。近與蘇聯政府商分回若干以爲蒙古人民紀念，得其許可，退回之物已運至恰克圖。而余之不能久留在此，與希世之寶物會面。更爲悵悵！

適蒙古國民黨中央執行委員會委員長丹巴道爾濟君聞余詢此事，以函介紹圖書館館長札木薩賴諾甫君，札木君原爲布利亞特蒙古人，博學多聞，爲歷史學

專家，俄國未革命前，不願受其壓迫，來入外蒙籍。聞余至甚喜！曰：君之來，雖不能見古物，但與發現之學者可遇，亦不幸中之一幸，蓋葛塞洛瓦君前數日適至此也，遂以函介紹之。

葛塞洛瓦君現年六十四歲，曾任俄國聖彼得堡大學教授，并至土耳其斯坦，西藏，巴塘，裏塘，四川，新疆，甘肅，蒙古考察古物有年。著作甚多，聞余欲往發現古墓之地一視，遂欣然任領導之責。

二十七日早余偕史可軒任警齋陳家珍馬文彥樂景濤，與葛君乘汽車兩輛前往，約經二百六十華里。晚宿招莫多。（漢語一百個樹）招莫多在庫倫之北，恰克圖之南，係前清光緒三十二年駐庫辦事大臣連順所奏，與俄人柯樂德訂立合同開辦金礦之一。

招莫多蒙民甚少，現有俄人二十一家，生活皆甚舒適，并設有電話，附近開墾之華人村落，星羅棋布

大半皆昔時鑛工也。余等到時，將近十鐘，以汽車夜行深山中，頗有戒心，殊負松風流水之天籟耳。

余與陳家珍樂景濤及葛君宿某俄人家，主人卽以上等菜餚不速之客，已可見其生活之一斑。彼等對於蘇聯現狀頗不了解。

可軒警齋文彥宿華人村落。中華人多直晉籍，問所居之地，則誤招莫多爲棗木墩，墩中百餘人皆無家室，種植僅大麥，小麥，油麥，豌豆四種。四月播種，現正收穫，其生產除自用外，皆運銷於烏蘭城。聞每畝稅金三錢，豐歲可收麥二百斤左右。今年天雨缺乏，僅得五六十斤，除人工，種子，賦稅，及生產材料外，終歲勤勞，僅能餬口。自白黨助活佛稱帝時，華人多遭蹂躪，至今元氣未復，故衣食住皆極簡陋。

村人聞可軒等調查古墓發現事，內有文姓者，（直隸懷安人）自述于民國十二年二月淘金于蘇珠克圖

當時某工友拾得玉器一件，某俄人見之，以爲荒山之中絕少人跡：忽出現此物，或其附近纍纍丘阜，皆係古墓，因試掘之，而震動世界祕密之陵寢竟由此發現。

可軒以葛君古墓記中之照片，示諸文姓，文曰：某與某片均爲墓內鑲壁之緞；某片爲棺內之銀質牛；某片爲瓦罐，罐下有小圓孔，內盛黑米子，（按卽黑黍）此皆由余工作之墓而得者。又驚曰：片內某人爲余同事之老趙。可軒因追問：墓中尙有何物。文曰：棺內鑲金約一制錢厚，有非中國式之馬鞍，及藤條馬鞭各一，衣褲襪一籠統，靴係蒙古式，黑色髮甚多，裹以黃緞，想係填實死人左右者，並有黑色髮辮一，約尺許。有方玉印一，篆文當時無識者，惜已壞成兩塊！又云：余發掘之墓，尙有可疑者：（一）因土質甚鬆，並成凹形。（二）墓下方六丈之大，而陳列之



物僅如前所舉。(三)木牆壁完好，而瓦罐多破碎，據種種情形斷之，此墓定係劫過者。但虛口松樹現已合抱，則遭劫常在百年以前云云。

二十八日早餐畢，遂同乘車向東南行，崗巒迴抱，盤旋而上，問之，諾顏山也。(諾顏皇帝之意)山極峻秀，松滿峯谷，時已霜降，菊科植物尚作花。而草葉已多變色，點綴松間，尤增興趣，登高遠望，長松參天，陰翳四合，真偉觀也。在山腰行三十餘里，經過峯巒十餘，有峯嶄然，葛君命停車，同余等拍照數張，並曰：山中之路近百里全為金鑛公司所闢。峯之南麓松林間，此路盡處，即目的地也。下山約里許，見松林中木房屋四五所，式極美觀。問之：皆昔時金鑛工程師所住，近因西伯利亞發現佳苗，已棄此而去矣。再行二里許。即見新土堆數處，知為古墓所在。葛君一一領觀，余等俯視墓坑數丈之下，皆成積水

，其中縱橫架木，悉為掘時新支撐者。原有壁木均棄置墓上，將原形盡已毀壞，殊為不慎。至主穴東西北三面環山，松林葱鬱，案前山口忽展開，約六七十里，眼界為之一寬，葛君曰：此墓中物甚多，如絲織品及商器，皆此中發現者。又曰墓中有一男，二女，六女，八女，三十女者，此則骨亂，未知幾何，女有辮者。髻者，其裝束亦不等，墓內有中國刺繡，土耳其斯坦織品。男子身軀皆偉大，似匈奴種，現皆移存列寧格勒博物院中。當墓中物到列寧格勒時，阿噶德米(俄國學者院)曾開歡迎會，各國學者評斷其為前一千三四百年間之物，又曰：伊發掘時間，曾經一年之久，共勸出古墓二百十二所，當時僅發掘十二處，為蒙古政府所阻止，謂當留為蒙古開辦歷史博物館之用，言下若有餘憾！余等蹊蹌於荒山蔓草之中，以為此墓中人不知何代何王，當其挾美姬名馬，馳驅大漠南

右任詩存

北，雄視一世，亦云豪矣。及其終也，得此蔥蔥鬱鬱之佳城，亦足少慰寂寞，豈意千百年後，爲金沙所累，竟不克長眠地下，去作列寧格勒博物院中之陳設品，幸歟不幸歟！

歸時由墓前南口出，回望蘇珠克圖數十里間，高低起伏，盡爲松林，約行四十里，至恰庫大道口，有俄婦開之小飲食店，少憩其處，因悉此路去古墓之道平坦而近，昨晚夜行招莫多亂山中，往返迂迴近百里，是葛君故出奇，俾余等得遇鄉人，并領略山中風景也。

歸後與同人翻閱葛君所著北蒙古發現古墓記，見絲織品各片段中以隸書分繡「新」，「神」，「靈」，「廣」，「成」，「壽」六字，其數共二十九，因持冊往訪札木薩賴諾甫君，札木君謂：不特此也，墓中女屍數十具，多半黑髮，尙有中國式繡機未朽，足證明其多

右任詩存

爲中國女子。余以中國工人所稱墓已早經發掘實之，曰：誠然。據某西史載，昔有敖漢族逐匈奴王而辱其墓，想卽係此。再墓發掘後，木上斧痕，以顯微鏡視之，與壁木上鑿痕，顯非一時所爲，此亦當爲早經發掘之證。札木君因詢余斷此當屬何代，余謂：他物無由見，僅就中國字形之變遷斷之，當在漢末，札木君不以爲然，曰：俄國學者亦多斷在紀元後四五百年，余意此爲匈奴單于之墓，全當中國漢時也。又謂：墓中物品有格利夾人之絲織畫，甚可寶貴，此族今在地中海邊。

歸之二日，余以中國工人所稱玉印一事，質之葛君，葛君曰：破而大者，余不知，余所得則小而完者，越日以原形拓片見示，謂：此物亦存列寧格勒博物院。又曰：出此玉印處，共三墓，地近招莫多，諸君前日並未至其處，發掘此墓者爲蒙古人，此印由余出

贊購得者。

葛君又曰：余所著之北蒙古發現古墓記，當時倉卒成書，諸多未備，故此玉印，記中無之，茲經再三搜集，材料已加多數倍，不久當再印行也。余與葛君約，俟出版後，當譌出介紹中國學者。

余在此少中國書籍，無由攷證，惟記近代某著作中，稱招莫多有蒙古某帝陵寢云云，但蒙古招莫多有數處，而此墓雖近招莫多實在諾顏山下蘇珠克圖者為多。前說恐亦非是，望國中攷古學者研究之後，有以教我。中華民國十五年九月二日于右任記于庫倫車臣汗府。

### 出 庫 倫

水陸奔馳艱復艱 北來今日慶南還  
清清圖拉河中水 照見髯翁度汗山

離庫倫後千餘里始見山榆一株上有  
雀巢無數再行百餘里過一華商商店  
飯後賦此

行千餘里見一樹  
樹上烏鴉巢無數  
沙漠風高不能棲  
來此倉皇日已暮  
倉皇兮倉皇  
相遇兮沙場  
賜我羶肉兮贈我酪漿  
君之惠兮未能忘  
飯不熟兮饑欲死  
腹已飽兮吟不止  
此行見聞良已多

華人自稱曰蠻子

——華人多自稱蠻子。——

外蒙道中二首

朔野馳驅興倍酣	沙場風物頗能譚
參天喬木腰及膝	穴地飛鳥北又南
垂老從戎獨自許	中原大亂共誰戡
饑時羊奶兼駝奶	飽食纔知味最甘

地老天荒鳥不譁	飛車似水走乾沙
多情明月來戈壁	如洗穹廬贈奶茶
人種于今隨地理	牛羊自昔當桑麻
海棠如掌真奇豔	闊葉全蒙獨此花

——有花名印度 棠，余名之曰野海棠。——

外蒙道中日暮

——見蒙人呼萬歲，同行者亦高呼和之，謂此次歸里必成功。——

萬歲復萬歲	高呼沙漠中
草連衰鬢白	沙映夕陽紅
麻雀棲平地	黃羊走晚風
黑人矜改革	酪亦醉髯翁

——蒙人謂平民曰：黑人。——

留昭蘇稅關數日拾薪煮飯

晚拾薪四日已斜	掏坑作飯煮磚茶
髯翁不費吹噓力	釜裏微茫見浪花

露宿外蒙兵營

星斗低昂落枕邊	多情明月映胸前
---------	---------

右 任 詩 存

幕天席地吾滋愧 一夜沙場自在眠

天似穹廡容我住 地無租賃任人眠  
乾坤真作舉田院 脚動星辰亦偶然

### 復由外蒙兵營往塞爾烏蘇道中

往轍追尋又北行 西風擊面作邊聲  
沙深能使車無力 路遠方悲地不平  
獨秀峯前看日出 白頭山下望雲生

——蒙古山多無名，獨秀峯，白頭山，

皆余沿途在風景佳處所題名也。——

長途新識金皮柳 作箸爲筇並告成

### 過塞爾烏蘇

車行三百里 處處是沙場

右 任 詩 存

地僻名難記 人稀路易荒  
牛羊似蠨蝥 水草作家鄉  
飛鳥投何處 途間又夕陽

### 自黑教堂遇險後北行至嘎嘎圖

脫險沙陀舊壤來 不堪回首使人哀  
沙蔥山盡饒風味 容得勞人飽一回

黃河幾折落包頭 塞上人還歲已秋  
地變天荒一灑淚 爲誰惋惜復誰尤

### 入烏蘭腦包

老困窮荒莫再論 時時有夢入關門  
十年舊句今成讖 一夜歸心過五原

——余七年歸里過延長時，有此句。——

臨河道中

烏拉山前塞雁過 臨河城外望黃河  
 河渠似網田原美 地主如狼數漸多  
 古道秋風臥戰馬 平沙夜月走明駝  
 ——路旁死馬甚多——  
 千年征伐餘荒草 羞唱英雄得寶歌

黃楊木頭十四夜憶內子高仲林

女偕翁去游天下 孫作兒攜慰暮年  
 ——外孫北大——  
 一事報君君可惱 人家十四月兒圓

露宿二之店沙漠

萬里奔馳歲月流 長城以外值中秋

蓋天鋪地黃河岸 沙擁如山作枕頭

邊牆下見雁

——在上烏金斯克時見雁，與布利亞特友人談及  
 蘇武寄書事，並云：此雁入中國必較余早。——

長城窟上一哀雁 北海相逢爭寄書  
 朔漠無食我同困 與爾纔度狼居胥  
 月落烟橫塞上下 沙飛紅映柳蕭疎  
 中原限日賊授首 更欲託君歸報渠

磴口中秋

明月何心懸磴口 黃河多事走中原  
 中原大亂連三輔 明月中秋似故園  
 李廣有功仍不幸 休屠無後莫呼冤  
 彎弓躍馬誰家子 獨立無聲徧塞垣

——主人稱土匪爲獨立隊。——

中秋過賀蘭山下

護巢蒼雉安云晚 失水神龍詎足憂  
大地馳驅四萬里 賀蘭山下作中秋

出寧夏望賀蘭山積雪

賀蘭山下作中秋 山上雪飛已白頭  
垂老纔知邊塞苦 輕驅十萬出靈州

寧夏南行道中

回回爭爲自由戰 勃勃寧開天下淘  
我離寧夏還北望 賀蘭如馬河如龍  
葡萄成後無美酒 罌粟收時病貧農  
山川壯麗人民困 不信朔方劍氣衝

詠寧夏屬植物

枸杞實垂牆內外 駱駝草映路高低  
沙蒿五色爛如錦 髮菜千絲柔似莠  
比屋葡萄容客飽 上田罌粟任兒啼  
朔方天府須梁棟 蓬轉于思西復西

固原道中

兩馬一車一破裘 一筇相伴入原州  
雞鳴半個城邊雨 葉落須彌山下秋  
地變難禁城不毀 途長只是老堪憂  
人生盡瘁非奇事 君看鄰村販輓牛

邠縣道中

已過邠人剝棗期 瀟川梨盡桔猶垂

右 任 詩 存

遺民爭說鏡山好 應記前朝避亂時

——半崖石屋，上人稱為露山，傳聞是唐人避亂時壑。——

西安城圍啟後再至藥王山

倚杖行吟西復東	藥王山上夕陽紅
重尋萬里歸來路	再作三年別後功
洞口雪深迷勝蹟	巖前柏老映衰翁
三秦戰壘民間滿	袖手無聊泣晚風



在武漢啟時攝



民國十六年五月十八年

與精衛壁君香凝孟餘民誼曾九姑游  
廬山(十六年八月)

胡爲載酒松間醉	多事尋詩石上眠
吳楚風雲來杖底	湖山圖畫落樽前
未能歸去如元亮	可有歌謠似謫仙
將盡便須從此盡	紗櫺樹下樹參天

聞廬山輿夫歎息聲

上山不易下山難	勞苦輿夫莫怨天
爲問人間最廉者	一升汗值幾文錢

鄧尉看桂(十六年九月)

家家摘蕊盡盈筐	晚桂豐收萬井香
---------	---------

右 任 詩 存

曳杖行吟香雪海 人間何事不能忘

與秉三遊尚父湖(十六年十月)

尚父湖波盪夕陽 征誅漁釣兩難忘  
窮羞白髮爲文士 老漢黃泉作國殤  
落葉層層迷去路 橫舟緩緩適何方  
柱枝如雪楓如血 猛憶關西舊戰場

虞山記遊

十年儲淚瀆關道 此日抽身虞仲山  
野鶴閑雲中有我 相親相伴寄人間  
落葉無聲積幾層 空山蹀躞老猶能  
江南古寺閒遊徧 也算西來一野僧



中國國民黨第二屆中央執行  
委員會第四次全體會議時攝

題經頤淵廖何香凝陳樹人合作歲寒  
三友圖(十七年一月)

紫金山上中山墓 掃墓來時歲已寒  
萬物昭蘇雷啓蟄 畫圖留作後人看

松奇梅古竹涵灑 經酒陳詩廖哭聲  
潤色江山一枝筆 無聊來寫此時情

鄧尉看桂歸次木瀆與林少和飲於  
石家飯店(十七年九月)

老桂花開天下香 看花走徧太湖旁  
歸舟木瀆猶堪記 多謝石家肥肺湯

歸陝次潼關作(十八年八月)

右任詩存

遲我遺黎有幾何 天饕人虐兩難過  
河聲嶽色都非昔 老入關門涕淚多

北歸書感

臥病久蹉跎 歸程計幾何  
難攜東海雨 苦執魯陽戈  
人與河山老 詩真血淚多  
渭南還渭北 惆悵莫經過

右任詩存

民國十九年

送梅曉華赴美

春動萬花忙 梅先天下香  
送君携國藝 同渡太平洋

蘇遊雜詠

不讓斬王萬字碑 功名蓋世復何爲  
江南苦念家山破 我亦關西老健兒

響屨廊前游女多 采香徑畔牧兒歌  
秋風吹動閒花草 惹得詞人喚奈何

杜花香裏鯉魚肥 載酒行吟歸不歸  
大老太湖人醉也 江山落日一南飛

右任詩存

掃墓雜詩

水環三面白公梁 垂老重來認故居  
猶記阿娘哭阿母 報兒今歲讀何書

——母親趙太夫人——

發塚原情亦可憐 報恩無計慰黃泉  
關西赤地人相食 白首孤兒哭墓年

——伯母房太夫人——

袖中書本袋中糖 入學相攜感不忘  
慟絕當年亡命日 彌留猶喚我還鄉

——叔祖重臣公——

傷心燕禍走西南 滿足千山帶病還

右任詩存

難忘床前揮涕語 盼兒星夜出潼關

發憤求師習貫餘 東關始賃一椽居  
嚴冬漏盡經難熟 父子高聲替背脊

手寫遺書何處尋 每看遷史淚沾襟  
微風吹動墳前草 猶是麻衣殉葬心

——父親三新公——

楊府村省房氏外家

朝陽依舊郭門前 似我兒時上學天  
難慰白頭諸舅母 幾番垂淚話凶年

無母無家兩歲兒 十年留養報無期  
傷心諸舅墳前淚 風雨牛車送我時

右任詩存

記得場南折杏花 西郊穠熟射林鴉  
天荒地變孤兒老 雪涕歸來省外家

桑柘依依不忍離 田家樂趣更今思  
放青霜降迎神後 拾麥農忙散學時

愁裏殘陽更亂蟬 遺山南寺感當年  
頽垣荒草農神廟 過我書堂一泫然



五中全會時攝於南京

跋

于先生所爲詩，未自留稿，茲僅就流傳收拾之所得，次爲此編，又徇諸青年讀者意，以橫式排印，版稅所入，便以補助本校費用，于先生爲本校創始者，當不見詫爲稗販長物也，編校既竣，附記於此。

三原民治小學校同學謹記

中華民國十八年九月

中華民國十九年五月初版  
中華民國廿一年七月四日

右任詩存

全一冊

定價銀一元

出版兼印刷者

世界書局

版權所有不准翻印

發行所  
暨上  
各省海  
世界書局



851.48  
乙 1062/11

蔣梅  
策編

# 詩 範

一、本情  
三、講聲  
五、奇耦  
七、程敘

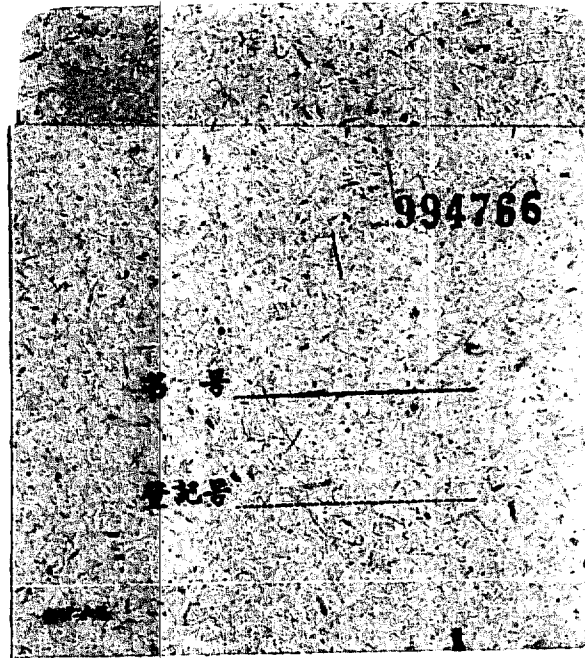
二、辨體  
四、綴韻  
六、致用  
八、華采

說理精審。引證明確。所選歷代詩數千篇。大都名家  
精品。頗適觀摩。迥非隨手亂塗者可比。學者能依範  
仿效。可得心手相應之樂。

世界書局印行

陽溪蔣梅策先生博學宏識。選於詩學。本其在大學多  
年教授詩學之心得。編纂本書。頗願旁通。入微出顯  
目。敬前人之秘鑰。作後學之津梁。全書分爲八章。要

32.357



0.00

上海  
郵政

